

平成２３年度 調査・研究事業

『農産物直売所の現状及び課題と成長戦略の提言』

報 告 書

平成２３年１１月

社団法人中小企業診断協会 和歌山県支部

はじめに

我が国の食料品自給率は40%を切っており、加えて農業従事者の高齢化や国の農業政策によって減反地が多く、農業は大きな曲がり角に来ている。従来からの農業政策は、少品種大量生産を目的とした大型専業農家を中心とする農業協同組合を通じて中央市場経由で流通されるものや、スーパーマーケットとの契約生産が中心であった。

しかし、一方では農業協同組合に出荷できない2級品を小規模で扱う農産物直売所も種々な形で発展してきた。

農産物直売所は、地元で生産された安心・安全な農産物を安く売だけの売上高のみを重視する小売店ではなく、本来は農村の活性化や消費者でもある地域住民の思いを担った多目的な活動であった。

儲けるための事業活動ではなく、農村・山村の活性化、地域農業の維持、農家や女性農業者の自立、都市農業の存続など様々な地域活動を背負った活動でもあった。

また、農産物直売所は副業型農家の農業活動を支える最適な活動場所であり、直売活動は単一品目大量生産を目指す主業型農家には不向きであるが、副業的労働力に見合った多品目少量生産をする副業型農家には、極めて適した活動である。

しかも現在、過疎地域ではスーパーなど小売店が撤退する中で、地元住民向けに一般流通食品を扱うスーパー機能まで、期待されるようになった。

加えて、農産物直売所に併設した地域農産物の加工施設や地域農産物を使用した簡易食堂などを運営して雇用促進の場となり、学校や福祉施設への給食食材供給や食育活動に参加し地産地消を推進し、農業・農産物加工体験や伝承活動、伝統料理教室を行うなど様々な事業へと活動範囲を広げて、農村地域活性化の拠点施設となっている。

しかし、この農産物直売所の急速な成長に刺激を受けたスーパーは、インショップ活動に力を入れるようになり、農業協同組合が農産物直売所を展開し、ホームセンターの様な食料品以外の小売業者も集客効果を期待して、農産物直売所事業に進出しようとしており、この様な動きが新たな農産物直売所活動競争を生み出している。

これらの問題を少しでも解消し、農産物直売所を発展させることがひいては地域活性化策につながると考えて、和歌山県支部では、平成23年度の「調査・研究事業」のテーマを、『農産物直売所の現状及び課題と成長戦略の提言』とした。

事業の内容としては、和歌山県の農産物直売所の実態調査、アンケート調査、ヒアリング調査、問題点の抽出、今後のあるべき姿の提言をし、関係者及び一般人を対象とするセミナーの開催を行い、最終的には報告書にまとめることにした。

実施方法及び場所としては、文献調査、統計調査、農産物直売所及び農業協同組合及び第3セクター等の農産物直売所担当者に対するアンケート調査、ヒアリング調査等による現状の把握と問題点

の抽出及び今後の在り方を和歌山県下の農産物直売所のうち（５１ヵ所）に対して行うことにした。

この５１ヵ所の農産物直売所は、いわゆる和歌山県下の農産物直売所と言われているもののうち、和歌山県農林水産部農業生産局果樹園芸課が当該施設の了承を得てホームページに掲載したものうち、道の駅の農産物直売所（平成２２年度の調査研究事業で実施したので除いた）、極端に営業時間の短い農産物直売所や営業日数の少ない農産物直売所、一時の季節に限って営業する農産物直売所を除いたものである。

社団法人中小企業中小企業診断協会

和歌山県支部 支部長 奥村博志

目 次

はじめに	1
第1章 農産物直売所の概要	7
1. 農産物直売所の歴史	7
2. 農産物直売の形態	8
3. 農産物直売所の存在意義	8
第2章 和歌山県の農産物直売所一覧表	10
1. 四季の郷公園 農産物直売センター	10
2. JAわかやま農産物直売所（愛菜てまりっこ）きもと店	11
3. JAながみね ファーマーズマーケットとれたて広場	12
4. 緑の郷農産物販売グループ	13
5. JA紀の里 ファーマーズマーケットめつけもん広場	14
6. JA紀の里 那賀支所ふれあい市場	14
7. JA紀の里 桃山町特産センター	15
8. JA紀の里 粉河支所ふれあい市場	16
9. ファーマーズマーケット紀ノ川ふうの丘	16
10. 青洲の里 農産物直売所	17
11. 産直市場よってって 貴志川店	18
12. 農産物（フレンド）ふれあい販売	19
13. JA紀の里 岩出ふれあい市場	19
14. 産直市場よってって 岩出店	20
15. 産直市場よってって 高野口店	21
16. ファーマーズマーケット やっちよん広場	22
17. 上兵庫ふれあい市場	23
18. 出塔ファーマーズマーケットれあい市場	24
19. 橋本市高野口町ふれあい農産物販売所	25
20. まるしげ農園	25
21. 河南地区農産物加工販売組合（果夢果夢バザール）	26
22. こんにやく工房	27

23. 九度山町ふるさと産品直売所	27
24. どんどん広場	28
25. 有田川町林業活性化センター	29
26. しみず農林産物振興センター	30
27. 産直市場よってって 吉備店	31
28. J Aありだファーマーズマーケット「ありだっこ」	32
29. 滝原温泉ほたるの湯物産販売所	33
30. 広川ビーチ物産センター	34
31. 産直市場よってって ごぼう店	34
32. 黒竹の里ぴかいち	35
33. 比井崎漁協直販店	36
34. さわやか日高	37
35. 共栄花の里産品所	38
36. フレッシュマート	39
37. ビーンズ直売所	40
38. ほんまもんふるさと産地直売所	41
39. 美山ふるさと産品展示販売所	42
40. 清流ふるさと産品センター井藤や	42
41. 秋津野直売所「きてら」	43
42. 産直市場よってって いなり店	44
43. J A紀南ファーマーズマーケット「紀菜柑（きさいかん）」	45
44. 龍神は〜との店	46
45. もぎたて広場 彦五郎	47
46. 口熊野上富田の駅こーなん産直館	47
47. ひまわり会	48
48. しおさい館にこにこ市	49
49. 産直市場よってって 新宮店	50
50. 那智駅交流センター	51
51. 古座川産品直売所「みんなの店」	52
第3章 直売所の現在の問題点	54
1. 商品に関するもの	54
2. 来客数・売上に関するもの	54

3. 客層に関するもの	5 4
4. 立地に関するもの	5 4
5. 生産者に関するもの	5 5
6. 人材に関するもの	5 5
7. 設備に関するもの	5 5
第4章 直売所の将来の問題点	5 6
1. 商品に関するもの	5 6
2. 来客数・売上に関するもの	5 6
3. 立地に関するもの	5 6
4. 生産者に関するもの	5 6
5. 設備に関するもの	5 6
6. 農産物直売所の役割に関するもの	5 6
第5章 農産物農産物直売所の今後のあるべき姿	5 7
1. 商品に関するもの	5 7
(1)品揃えの充実	5 7
(2)機会損失の防止	5 7
(3)安心・安全・新鮮食品の提供	5 8
(4)トレーサビリティの実施	5 8
2. 設備に関するもの	5 8
(1)複合施設の併設による来客数の増加	5 8
(2)通過客の取り込み	5 8
(3)規模の拡大や店舗場所の変更	5 8
(4)レジスターの設置	5 8
3. イベントに関するもの	5 8
(1)定期的なイベントの実施	5 8
(2)消費者との交流	5 8
(3)情報の提供	5 9
4. 生産者に関するもの	5 9
(1)営農指導等の実施	5 9
(2)生産者へのアドバイス	5 9
(3)トレーサビリティの実施	5 9

(4) 高齢化対策	59
(5) 農業後継者づくりや新規就農者の受入	59
(6) 生産者の意欲の引き出し	59
5. 販売促進に関するもの	59
(1) 生産者も農産物直売所の運営を分担	59
(2) POPやレシピの活用	59
(3) 加工品の強化	60
(4) 生産者個人の強調	60
(5) 一級品と二級品の区別	60
(6) 販路開拓	60
(7) 旬や季節感の演出	60
(8) 地域の伝統食文化の強調	60
6. 人材に関するもの	60
(1) 教育訓練の実施	60
(2) 商品知識の吸収	60
(3) 3S運動の徹底	60
(4) 資格の取得	60
7. 農産物直売所の役割に関するもの	60
(1) 農産物直売所の役割の再考	60
(2) 生産者と消費者の交流の場づくり	61
(3) 地域食料自給率の向上と農業振興	61
(4) 農業の6次産業の創造	61
(5) 地元産へのこだわり	61
おわりに	63
参考資料・アンケート調査票	65

第1章 農産物直売所の概要

1. 農産物直売所の歴史

商品流通の原初的な形態は「朝市」であり、「朝市」は人類が交換経済を経験し始めたころから営まれており、現在でも各地で行われている。

しかし、農作物の流通は全国市場を意識して地方卸売市場、中央卸売市場などを中心に整備され、農協による系統流通、大手スーパーなどによる大規模な契約栽培などが支配的なものになっていった。

このような枠組みの中で、農協に出荷できない規格外品などの2級農産物を農家の軒先に置いておくという「無人販売所」が戦後間もなく生まれてき、このスタイルも現在でも各地で見ることができる。

現在全国各地で見られるような農産物直売所は、昭和50年頃から「無人販売所」の経験を積み重ねてきた地域農業者グループ、農協女性部、市町村役場などが「もう少し本格的にやりたい」と考えるようになって徐々に設立されてきたが、平成10年頃よりも以前に各地で設立された農産物直売所は、中小規模兼業農家や高齢農家などのために農村地域の活性化を目的に地域住民が協力してつくられたものが多数あり、やはり農協に出荷できない規格外品などの2級農産物を安く売る店であった。

ただ、これらの農産物直売所は農山村の中山間地域では過疎化がすすむなかで地域活性化拠点として、平地農村部では遊休農地が増えるなかでの農業振興拠点として、大都市近郊では都市農業不要論に抗して都市農業の存続と存在意義を訴える拠点として、地域住民の期待を背負って設立されたのである。現在も農業者の自立を目指した農産物直売所、農家女性の活性化を夢みた農産物直売所も全国に多く存在する。

平成10年ごろまで農協は農産物直売所活動には本気になって取り組んでいなかった。地域で生産された農産物は農協が一元的に集め中央市場に出荷することが基本で、地元における農産物直売所活動はいわば邪道な活動であると考えられてきた。

しかし、平成9年に開設されたJAいわて花巻の農産物直売所「母ちゃんハウスだあすこ」の成功の頃から、農協が組織として農産物直売所活動を運営する意義を認めてきた。その後は組織的に農産物直売所活動に乗り出し、独自にファーマーズマーケットという大規模農産物直売所戦略も打ち出している。

「日本農業新聞」の統計では、平成20年末の農協系農産物直売所は全国に2,000ヵ所近くあり、総売上高は約1,800億円に達している。その後も農協系農産物直売所は相当な勢いで増加しているので、農協系農産物直売所の割合はますます高まるであろう。この結果、既存農産物直売所と地域内で競争が激化している。

いずれの形態にしろ、農産物直売所が各地で増加してくると、従来の様な農協に出荷できない規格

外品などの2級農産物を安く売る店ではなく、今では、新鮮なおいしい野菜を安く買える所といえば農産物直売所といわれるまでになった。

また従来から農産物直売所ではタケノコ、きのこ、山菜など林産物も扱ってきているが、今後の農産物直売所は、これに地元産畜産物、水産物が加わる動きが進んで、今後は農産物直売所から徐々に農畜林水産物直売所へ発展していくであろう。

2. 農産物直売の形態

農産物直売の経営主体は生産者自身、農業協同組合、公社・第3セクター、ホームセンター、スーパーマーケット、一般企業等々さまざまであるが、農産物直売の主たる形態は次のとおりである。

農産物直売の形態		現 状	将 来 展 望
朝市・青空市など		一部地域で現在も盛ん	徐々に衰退する
農家庭先などでの個別販売		都市近郊農家や果樹農家で盛ん	場所がよい農家では今後も続く
施設販売	簡易施設無人販売	農村地域などにみられる	徐々に衰退する
	有人季節販売	果樹地帯、寒冷地などにみられる	根強い、徐々に周年化も進む
	有人特定日販売	全国的に多くある	徐々にほぼ毎日運営へ
	有人周年販売	全国的に盛んになった	畜水産物直売も加わる
契約栽培(契約販売)		特殊作物、生協活動などで展開	今後はスーパーなどが加入する可能性あり
生産者直接の宅配販売		一部果樹農家などで展開	大きくは伸びない
農家・直売所等の出張販売		全国的に少しみられる	今後は農山村部直売所が展開を図る
スーパーなどのインショップ		全国的に盛んになった	直売所と競争で発展する

3. 農産物直売所の存在意義

農産物直売所は売上高を重視するだけの小売店ではなく、本来は農村の活性化や消費者でもある地域住民の思いを担った多目的な活動であった。

儲けるための事業活動ではなく、農村・山村の活性化、地域農業の維持、農家や女性農業者の自立、都市農業の存続など様々な地域活動を背負った活動であった。

また、農産物直売所は副業型農家の農業活動を支える最適な活動場所である。直売活動は単一品目大量生産を目指す主業型農家には不向きであるが、副業的労働力に見合った多品目少量生産をする副業型農家には、極めて適した活動である。

現在、過疎地域ではスーパーなど小売店が撤退する中で、直売所は地元農林産物を販売するだけでなく、道の駅等でみられるように観光拠点になり特産物を扱ったり、地元住民向けに一般流通食品を扱うスーパー機能まで、期待されるようになった。

加えて、農産物直売所に併設した地域農産物の加工施設や地域農産物を使用した簡易食堂などを運営して雇用促進の場となり、学校や福祉施設への給食食材供給や食育活動に参加し地産地消を推進し、農業・農産物加工体験や伝承活動、伝統料理教室を行うなど様々な事業へと活動範囲を広げて、農村地域活性化の拠点施設となっている。

この直売所の急速な成長に刺激を受けたスーパーは、インショップ活動に力を入れるようになり、ホームセンターの様な食料品以外の小売業者も集客効果を期待して、直売所事業に進出しようとしており、直売所の発展が新たな直売活動競争を生み出している。

従来からの基本的な青果物流通ルートは、農家→農協→全農→卸売業→仲売業→小売業→消費者のルートで早くとも収穫から4日くらい経ないと小売業の店頭には並ばなく、農家の手取り価格は小売価格の3割程度であった。

農産物直売所ルートでは、農家→新鮮・美味・安心・安全の直売所→消費者のルートで、農家が当日の朝、あるいは前日収穫したものが店頭に並び、流通経費がかからないので安く販売できる。しかも生産者の個人名表示で販売するのが一般的で、責任の所在が明確になり、いい品物を出荷する生産者にはリピーターが生まれるという現象が生じている。

第2章 和歌山県の農産物直売所一覧表

この章に掲載された農産物直売所は、いわゆる和歌山県下の農産物直売所と言われているもののうち、和歌山県農林水産部農業生産局果樹園芸課が当該施設の了承を得てホームページに掲載したものである。

ただし、このうち道の駅の農産物直売所は平成22年度の調査研究事業で実施したので除いた。

また極端に営業時間の短い農産物直売所や営業日数の少ない農産物直売所、一時の季節に限って営業する農産物直売所も除いた。

各農産物直売所の内容として記載されている内容は、果樹園芸課のホームページに記載されている事項、アンケート調査の回答、現地ヒアリング結果及び現地で目視したもの他、当該直売所のホームページからの引用である。

1. 四季の郷公園 農産物直売センター

直売所名称	四季の郷公園 農産物直売センター			
所在地	和歌山市明王寺85			
開店年月	平成12年4月			
TEL	073-478-4303	FAX	073-478-4303	
運営主体	有限会社四季の郷			
営業時間	9時00分～16時30分			
定休日	火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日）、お盆、年末年始			
アクセス	阪和道和歌山ICから約7km/車で約20分			
従業員数	正社員	パート	その他	合計
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名
	女性 名	女性 6名	女性 名	女性 6名
	計 名	計 6名	計 名	計 6名
売場面積	20坪			
レジ台数	1台			
主な販売物	筍、柑橘（みかん、八朔、はるみ等）、ブルーベリー、野菜、花卉、農産物加工品（ジャム、漬物、たけのこ水炊き等）、ソフトクリーム、パン、手芸品			
22年度売上高	15,000千円			
22年度来客数	10,000人			

客単価	1,500円/人
売上傾向	横ばい
定期的イベント	筍祭り(4月)、萩祭り(9月)
飲食施設	なし
出荷登録者数	100人
駐車場	あり(100台)
トイレ	あり(四季の郷公園内にあり)
障害者施設	駐車場、トイレ
当直売所の長所 (特徴)	・春のタケノコ、秋のミカンを中心とした新鮮な農産物の直売や、「ブルーベリージャム」をはじめ、「みかんのゼリー」や「タケノコのビン詰め」といった地元の特産加工品の試作・販売も行っている。 ・また、この直売販売センターに従事しているのは、地元農家の人々なので、新鮮な農産物を販売するだけでなく、おいしくて新鮮な野菜の見分け方や地元で伝わる旬の野菜のおいしい調理方法をアドバイスするなど、お客様とのコミュニケーションを大切にし、生産農家と消費者との交流の場としての役割も果たしている。

2. JAわかやま農産物直売所(愛菜てまりっこ)きもと店

直売所名称	JAわかやま農産物直売所(愛菜てまりっこ)きもと店		
所在地	和歌山市木ノ本304-3		
TEL	073-452-3883	FAX	073-452-3886
運営主体	わかやま農業協同組合		
営業時間	9時30分～17時30分		
定休日	年始		
アクセス	南海・加太線 八幡前駅から約1km		
レジ台数	2台		
主な販売物	野菜(ほうれんそう、小松菜、キャベツ、大根等)、米、花卉、果実(みかん)		
定期的イベント	・第2、第4金曜日に感謝セールを実施。 ・第1、第3水曜日に米の日を実施。		
飲食施設	あり		
出荷登録者数	300人		
駐車場	あり(20台)		

トイレ	あり
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・地元農家による生産物、管内集荷場からの出荷物をメインに地場での品揃えを基本にしている。ただし、消費者に来店してもらうために、地場に不足しているものは市場を経由して品揃えしているが、輸入品は扱っていない。 ・有機肥料、減農薬商品にこだわっている。安心・安全・新鮮食品の提供。 ・各部会員にPOSシステムを利用した販売状況を音声TELで対応しており、追加や売れ残り具合が何時でも確認できる。

3. JAながみね ファーマーズマーケットとれたて広場

直売所名称	JAながみね ファーマーズマーケットとれたて広場		
所在地	海南市重根418		
TEL	073-487-0900	FAX	073-487-0987
運営主体	ながみね農業協同組合		
営業時間	4月～9月：9時00分～18時00分 10月～3月：9時00分～17時00分		
定休日	水曜日、年末年始		
アクセス	阪和道 海南東ICから東へ約2km		
売場面積	182坪		
レジ台数	6台		
主な販売物	野菜、花、果実、加工品		
定期的イベント	野菜、果物の旬には、漬物講習会等を行っている。		
飲食施設	なし		
駐車場	あり（180台）		
トイレ	あり		
障害者施設	障害者用トイレ、駐車場		
当直売所の長所 (特徴)	・地元で生産された「安全・安心・新鮮」な農産物や加工品などを、消費者に安価で提供するとともに、生産者の顔の見える販売により「生産者と消費者の交流の場づくり」を進めている。 ・多様な担い手の育成・支援をおこない生産者相互の仲間づくり、生きがいづくりに貢献するとともに、体験農園などによる食育、地域農産物の提供によ		

	る地域食料自給率の向上と農業振興をめざしている。 ・農産物別の販売状況を生産者にリアルタイムで知らせ、農産物を補充することが可能なシステムを導入し、品薄状態にならないよう配慮している。 ・旬の野菜を使った料理レシピの提供を行っている。
--	---

4. 緑の郷農産物販売グループ

直売所名称	緑の郷農産物販売グループ		
所在地	海草郡紀美野町西野 9 7 1 - 1（のかみふれあい公園内）		
開店年月	平成 1 2 年 7 月		
T E L	0 7 3 - 4 8 9 - 5 3 0 0	F A X	0 7 3 - 4 8 9 - 2 5 1 0
運営主体	緑の郷農産物販売グループ		
営業時間	9 時 0 0 分 ~ 1 7 時 0 0 分		
定休日	火曜日（祝日の場合はその翌日）		
アクセス	阪和道 海南東 I C から国道 3 7 0 号線を約 2 0 分		
従業員数	出荷者が交代で販売し、雇用従業員は 0 である。		
売場面積	1 5 坪		
レジ台数	1 台		
主な販売物	みかん、柿、旬の野菜、花、こんにゃく、みそ、シュロ製品、梅干、ジャム他 農産物加工品		
2 2 年度売上高	1 4, 0 0 0 千円		
売上傾向	横ばい		
仕入形態	仕入 3 0 %、 委託 7 0 %		
定期的イベント	のかみふれあい公園内における屋外テントでの販売 きみの夏祭り、紀美野町農林商工祭り、森のひだまり市への出店		
飲食施設	あり		
出荷登録者数	4 7 人		
駐車場	あり（1 5 0 台）		
トイレ	あり		
障害者施設	なし		
当直売所の長所 （特徴）	・緑の郷農産物販売グループは、名称の通り豊かな自然の緑に恵まれた環境の中で、会員農家が一生懸命育てた農産物を販売している。 ・安心・安全をモットーに生産者の顔の見える販売所作りを目指して頑張っている。		

	いる。
--	-----

5. JA紀の里 ファーマーズマーケットめっけもん広場

直売所名称	JA紀の里 ファーマーズマーケットめっけもん広場		
所在地	紀の川市豊田56-3		
開店年月	平成12年11月		
TEL	0736-78-3715	FAX	0736-78-3716
運営主体	紀の里農業協同組合		
営業時間	9時00分～17時00分		
定休日	火曜日		
アクセス	阪和道 泉南ICから約14km、車で約30分		
売場面積	410坪		
レジ台数	8台		
主な販売物	野菜、果物、花卉、米、加工品、手芸品、ジェラート、生搾りジュース、おにぎり		
22年度売上高	約3,000,000千円（ホームページによる推計値）		
客単価	約3,500円/人（ホームページによる推計値）		
売上傾向	増加傾向		
定期的イベント	JA紀の里では来場者アンケートをもとに、農作業体験の希望者を募り体験交流会などを開催しており、今後もめっけもん広場を消費者と生産者を結ぶ拠点として様々な活動を展開していく予定である。		
飲食施設	あり		
出荷登録者数	約1,000人		
駐車場	あり（約250台）		
トイレ	あり		
障害者施設	駐車場、トイレ		
当直売所の長所（特徴）	JA紀の里が姉妹連携しているJAいわて花巻のほか6府県JAや県内のJAとの連携により、それぞれの特産農産物や加工品を積んだトラック便の定期運行を実施しており、地元では生産できない特産品や時期外れの農産物をそろえることも可能にしている。		

6. JA紀の里 那賀支所ふれあい市場

直売所名称	J A紀の里 那賀支所ふれあい市場		
所在地	紀の川市切畑1237-2		
TEL	0736-75-6336	FAX	0736-75-2964
運営主体	紀の里農業協同組合		
営業時間	9時00分～17時00分		
定休日	火曜日		
アクセス	JR名手駅から約4km 車で約13分		
売場面積	33坪		
レジ台数	1台		
主な販売物	果物、野菜、花、加工品(味噌、金山寺味噌、梅干し、つるし柿等)		
定期的イベント	なし		
飲食施設	なし		
駐車場	あり(7台)		
トイレ	あり		
障害者施設	なし		
当直売所の長所 (特徴)	店内に手洗いもあり、休憩所としても利用できる。見晴らしの良い広域農道のドライブついでに是非立ち寄ってもらえる。		

7. J A紀の里 桃山町特産センター

直売所名称	J A紀の里 桃山町特産センター		
所在地	紀の川市桃山町市場404-1		
TEL	0736-66-2384	FAX	0736-78-2526
運営主体	紀の里農業協同組合		
営業時間	8時30分～17時00分		
定休日	火曜日(6月から盆まで無休)、盆、正月		
アクセス	JR下井阪駅から南へ約2.5km 車で約8分		
売場面積	54坪		
レジ台数	1台		
主な販売物	野菜、果物、花、加工品(金山寺味噌、桃ジャムなど)		
定期的イベント	なし		
飲食施設	なし		
駐車場	あり(16台)		

トイレ	あり
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	「モモようかん」「モモジャム」「桃源酒」は特産の桃を使って商品化したもので、和歌山県優良土産推薦証を受けている。

8. J A紀の里 粉河支所ふれあい市場

直売所名称	J A紀の里 粉河支所ふれあい市場		
所在地	紀の川市粉河413		
TEL	0736-73-8587	FAX	0736-73-8587
運営主体	紀の里農業協同組合		
営業時間	9時00分～16時00分		
定休日	盆・正月		
アクセス	JR粉河駅から約0.5km		
売場面積	25坪		
レジ台数	1台		
主な販売物	花、野菜、果物、加工品(こんにゃく、味噌、梅干し、漬け物等)		
定期的イベント	春と秋の彼岸、盆、年末にはテントを別に張り、季節に応じた花や野菜の特売をしている。		
飲食施設	なし		
駐車場	あり(5台、J A紀の里粉河支所と共同で)		
トイレ	あり(J A紀の里粉河支所内に)		
障害者施設	なし		
当直売所の長所 (特徴)	デコポン、はるみ、イチゴ、桃、デラウェア、巨峰、梨、柿、みかん、八朔、ネーブルなど年間を通じて果物が豊富である。		

9. ファーマーズマーケット紀ノ川ふうの丘

直売所名称	ファーマーズマーケット紀ノ川ふうの丘		
所在地	紀の川市平野927		
開店年月日	平成13年9月1日		
TEL	0736-75-3173	FAX	0736-75-5410
運営主体	紀ノ川農業協同組合		
営業時間	8時00分～17時00分		

定休日	火曜日(火曜日が祝日の場合は振替)			
アクセス	ＪＲ名手駅から約５．３ｋｍ 車で約１３分			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 １名	男性 名	男性 ５名	男性 ６名
	女性 名	女性 ４名	女性 ５名	女性 ９名
	計 １名	計 ４名	計 １０名	計 １５名
レジ台数	３台			
主な販売物	地元産米、地元野菜・果物・花、加工品(こんにやく、ジャム、ジュース他)、焼き芋			
仕入形態	仕入 ４５％、 委託 ５５％(手数料１５％)			
定期的イベント	年４回実施			
飲食施設	あり（オープンカフェ形式で各種定食や麺類）			
出荷登録者数	４００人（実働２５０人）			
駐車場	あり（７０台）			
トイレ	あり			
障害者施設	なし			
当直売所の長所 (特徴)	・お客様とのコミュニケーションを大切にし、対面販売を取り入れ、お客様との繋がりを大切にしている。 ・日本ベジタブル＆フルーツマイスター協会が認定するジュニアマイスター（野菜ソムリエ）の資格を持ったスタッフが４名いる。 ・商品に添付する値札に出荷日を記入するようになっており、商品が何日に出荷されたのかをお客様にわかりやすく表記するようになっている。			

10. 青洲の里 農産物直売所

直売所名称	青洲の里 農産物直売所		
所在地	紀の川市西野山４７３		
開店年月日	平成１１年４月１日		
TEL	０７３６－７５－４０１５	FAX	０７３６－７５－２６３２
運営主体	青洲の里 農産物直売所（農業者の任意団体）		
営業時間	８時３０分～１７時００分		
定休日	火曜日		
アクセス	ＪＲ名手駅から約２ｋｍ		

従業員数	正社員		パート		その他	合 計
	男性	名	男性	名	男性	名
	女性	名	女性	4名	女性	20名
	計	名	計	4名	計	20名
	その他の20名は生産者が販売を担当する人数である。					
売場面積	8坪					
レジ台数	なし					
主な販売物	野菜、果物、加工食品、花等					
22年度売上高	6,208千円					
22年度来客数	1,260人					
客単価	500円/人					
売上傾向	減少傾向					
仕入形態	仕入 0%、 委託 100%(手数料15%)					
定期的イベント	10月に開催される「青洲まつり」には、餅つきなどを行っている。					
飲食施設	青洲の里にあり					
出荷登録者数	40人					
駐車場	青洲の里にあり					
トイレ	青洲の里にあり					
障害者施設	なし					
当直売所の長所 (特徴)	・地産地消を基本とした朝採り野菜・果物で新鮮である。 ・販売価格も安い。					

11. 直産市場よってって 貴志川店

直売所名称	直産市場よってって 貴志川店		
所在地	和歌山県紀の川市貴志川町前田166		
開店年月日	平成22年3月4日		
TEL	0736-65-2533	FAX	0736-65-2539
運営主体	株式会社プラス		
営業時間	9時00分～18時30分		
定休日	年中無休(1/1～1/3は休業)		
アクセス	和歌山電鉄貴志駅から1.2km		
レジ台数	4台		

飲食施設	あり（産直バイキングレストラン「八十八家」）
駐車場	あり
トイレ	あり
障害者施設	駐車場及びトイレ

12. 農産物（フレンド）ふれあい販売

直売所名称	農産物（フレンド）ふれあい販売		
所在地	岩出市川尻 2 8		
TEL	0 7 3 6 - 6 2 - 4 5 9 3	FAX	0 7 3 6 - 6 2 - 4 5 9 3
運営主体	生産者の任意団体		
営業時間	7 時 0 0 分～1 1 時 0 0 分		
定休日	毎週木曜日、年末年始、盆		
アクセス	J R 岩出駅から約 2. 3 km		
レジ台数	なし		
主な販売物	野菜(玉ねぎ、大根、ほうれんそう他)、花		
定期的イベント	季節野菜の調理方法を紹介している。		
飲食施設	なし		
駐車場	あり（5 台）		
トイレ	なし		
障害者施設	なし		

13. J A 紀の里 岩出ふれあい市場

直売所名称	J A紀の里 岩出ふれあい市場			
所在地	岩出市曾屋３３８－４			
開店年月日	平成１６年１０月１日			
TEL	０７３６－６２－２１２９	FAX	０７３６－６２－２１７４	
運営主体	紀の里農業協同組合			
営業時間	９時００分～１６時００分			
定休日	火曜日			
アクセス	J R岩出駅から約３k m			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名

	女性 名	女性 4名	女性 名	女性 4名
	計 名	計 4名	計 名	計 4名
売場面積	15坪			
レジ台数	1台			
主な販売物	野菜、花、米粉パン、豆腐、味噌、金山寺みそ、蜂蜜、卵			
22年度売上高	33,500千円			
22年度来客数	33,027人			
客単価	1014円/人			
売上傾向	減少傾向			
仕入形態	仕入 30%、委託 70%(手数料15%)			
定期的イベント	・湯浅中央漁協との連携により、毎週日曜日に鮮魚販売を行っている。 ・旬の野菜・果樹の販売イベントを実施している。			
飲食施設	なし			
出荷登録者数	150人			
駐車場	あり(20台)			
トイレ	あり			
障害者施設	なし			
当直売所の長所 (特徴)	選果場の一角に店舗があり、特産品のねごろ大唐やナバナなど新鮮な野菜や果樹が特徴である。			

14. 産直市場よって 岩出店

直売所名称	産直市場よって 岩出店（業務スーパーと併店）		
所在地	岩出市中島751-1		
開店年月	平成16年2月		
TEL	0736-69-0025	FAX	0736-69-0035
運営主体	株式会社プラス		
営業時間	9時30分～19時30分		
定休日	1月1日～3日		
アクセス	JR岩出駅から約2.8km		
レジ台数	4台		
主な販売物	野菜(きゅうり、青ねぎ、キャベツ等)、花(小菊、スターチス、びしゃこ等)、果物(イチゴ、みかん、温州みかん等)、加工品		

定期的イベント	四季に応じたイベントを計画的に開催している。
飲食施設	なし
駐車場	あり（１００台）
トイレ	あり
障害者施設	駐車場、トイレ
当直売所の長所 (特徴)	・特産品である桃やブドウ、柿など、ほぼ１年を通じて果物を販売している。 ・わかやま県内に７店舗あり、各店より自慢の旬の食材も供給でき、品揃えが豊富である。 ・重量野菜(白菜、大根、キャベツ等)も豊富である。

15. 産直市場よってって 高野口店

直売所名称	産直市場よってって 高野口店		
所在地	橋本市高野口町名倉２５１－１		
開店年月	平成１９年１１月		
TEL	０７３６－４３－２２００	FAX	０７３６－４３－１４８８
運営主体	株式会社プラス		
営業時間	９時００分～１８時３０分		
定休日	１月１日～３日		
アクセス	京奈和道 高野口ＩＣすぐ		
レジ台数	４台		
主な販売物	野菜(きゅうり、青ねぎ、大根等)、花(高野槇、苗等)、果物(富有柿、温州みかん、イチゴ等)、加工品		
飲食施設	なし		
駐車場	あり（７０台）		
トイレ	あり		
障害者施設	障害者用駐車場及びトイレ		
当直売所の長所 (特徴)	・日本一の柿産地であり、桃やブドウなども豊富で試食も取り揃え、味の確認ができ安心できると評判である。 ・高野槇を中心とした花卉類も豊富で、サイズや価格帯もバラエティに富んでおり、選ぶ楽しさがある。 ・精肉や鮮魚コーナーも充実している。		

16. ファーマーズマーケット やっちゃん広場

直売所名称	ファーマーズマーケット やっちゃん広場			
所在地	橋本市岸上5 2 2－1			
開店年月日	平成1 5年1 0月1 6日			
TEL	0 7 3 6－3 3－2 5 0 0	FAX	0 7 3 6－3 3－3 3 2 0	
運営主体	紀北川上農業協同組合			
営業時間	4～9月：9時0 0分～1 8時0 0分 1 0～3月：9時0 0分～1 7時0 0分			
定休日	水曜日、年末年始、盆			
アクセス	J R紀伊山田駅から約0. 7 km			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 3名	男性 5名	男性 名	男性 8名
	女性 1名	女性 1 5名	女性 5名	女性 2 1名
	計 4名	計 2 0名	計 5名	計 2 9名
売場面積	1 7 7坪			
レジ台数	7台			
主な販売物	野菜、果実、米、切り花、ポット苗、加工品(漬け物、味噌など)、工芸品等			
2 2年度売上高	1, 1 1 2, 8 4 3千円			
2 2年度来客数	5 1 0, 3 0 3人			
客単価	2, 1 8 1円/人			
売上傾向	減少傾向			
仕入形態	仕入 1 2. 9%、 委託 8 7. 1%(手数料1 5. 5%)			
定期的イベント	・旬の農産物について、料理レシピの紹介・提案を行っている。 ・毎月1回食育イベントを実施している。 ・7月に「桃まつり」、1 0月に「柿まつり」のイベントを開催している。			
飲食施設	なし			
出荷登録者数	1, 1 6 5人			
駐車場	あり（1 4 0台）			
トイレ	あり			
障害者施設	駐車場			
当直売所の長所 (特徴)	・やっちゃん広場の魅力に迫る3つのキーワード 1「おいしい」～朝採り野菜だから新鮮			

	「新鮮野菜は健康の源」。魚介類と一緒に、野菜も採れたてで新鮮なものは栄養価が高く風味も抜群！！市場を通さず、地元でその日のうちに採れたものを地元で売るので、一般のスーパーでは手に入らない本物の野菜が購入できる。 2「安い」～市場を流通しないので低コストで販売 おいしいものが手に入るのも魅力であるが、そのうえ値段も安いのがファーマーズマーケットのいいところである。 消費者が普段口にしている農作物のほとんどが市場から流通している。畑で採れた農作物を集荷し、その後、市場から小売店へ卸売したものである。 畑から直接店頭へ並べるファーマーズマーケットでは、流通段階で発生する手数料もかからず、生産者が自由に値付けできるので、流通コストを差し引いた廉価で商品が並ぶので、消費者はいいものをお買い得価格で購入できる。 3「安全」～誰が・何を・いつ・どのように作ったのかを全出荷者が栽培履歴を記帳、おいしくて安いだけが「やっちゃん広場」のすべてではなく、「食の安全面」にも万全の体制で取り組んでいる。 生産者から出荷される農産物のすべてに栽培履歴の記帳を義務付け、「誰が・何を・いつ・どのように」栽培してきたかを履歴で残すシステムを構築。 履歴を残すことでどのような過程で栽培されたかがわかるので、消費者は安心して農産物を食べられる。また、栽培履歴の記帳を義務付けることで、生産者に安全・安心な農作物の栽培を促し、農作物への間違った農薬散布などを未然に防ぐ目的もある。 ・全国のJA直売所との産地間提携により農産物や加工品を販売している。
--	---

17. 上兵庫ふれあい市場

直売所名称	上兵庫ふれあい市場		
所在地	橋本市隅田町上兵庫241-1		
TEL	0736-34-0224	FAX	0736-34-0224
運営主体	近隣農家の任意団体		
営業時間	6時30分～11時30分		
定休日	年末年始(12月31日～1月10日)、盆(8月15日～16日)		
アクセス	JR下兵庫駅から約1km		
従業員数	生産者が交代で販売と売上計算		
売場面積	10坪		

レジ台数	なし
主な販売物	米、野菜、切り花、ポット苗、果物、漬物、工芸品
客単価	約1,500円/人
売上傾向	減少傾向
仕入形態	仕入 0%、 委託 100%(手数料10%)
定期的イベント	なし
飲食施設	なし
出荷登録者数	15人
駐車場	あり(20台)
トイレ	あり
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・地元産のとれたて新鮮野菜をどの品物も100円を基本に、お客様に買ってもらいやすいようにしている。 ・国道24号に面しているので、交通が便利である。 ・接客係は毎日当番制でお客様と接しており、料理方法等紹介している。

18. 出塔ファーマーズマーケットれあい市場

直売所名称	出塔ふれあい市場		
所在地	橋本市出塔352-10		
TEL	090-2387-2764	FAX	
運営主体	出柏営農研究会		
営業時間	6時00分～9時00分		
定休日	12月31日～1月9日		
アクセス	京奈和道 橋本ICから約5km		
従業員数	生産者が交代で販売と売上集計		
売場面積	12坪		
レジ台数	なし		
主な販売物	野菜、米、味噌、切り花、餅、漬け物		
売上傾向	減少傾向		
仕入形態	仕入 0%、 委託 100%(手数料10%)		
定期的イベント	なし		
飲食施設	なし		

出荷登録者数	12名
駐車場	あり（20台）
トイレ	あり
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・この地域でとれた物だけにこだわって販売している。 ・旬の野菜や米が人気である。 ・旬の野菜の食べ方を紹介している。

19. 橋本市高野口町ふれあい農産物販売所

直売所名称	橋本市高野口町ふれあい農産物販売所		
所在地	橋本市高野口町上中26		
TEL	0736-42-4883	FAX	0736-42-4883
運営主体	農業者の自主団体		
営業時間	5時00分～11時30分 10月から年内は5時00分～14時00分		
定休日	盆、正月各5日		
アクセス	京奈和道 高野口ICから約2km		
従業員数	0名、出荷者が自ら運営		
レジ台数	なし		
主な販売物	野菜、果物(柿、柑橘類、キウイ、スモモ)、梅、味噌、漬物、餅、花、高野槇		
売上傾向	減少傾向		
仕入形態	仕入 0%、 委託 100%(手数料10%)		
定期的イベント	なし		
飲食施設	あり		
出荷登録者数	23名		
駐車場	あり（農協支店の駐車場を利用）		
トイレ	あり		
障害者施設	なし		
当直売所の長所 (特徴)	・とれたて新鮮野菜とおいしい柿はどこよりも安いと人気である。 ・地元の米を使った味噌、餅、漬物なども販売している。		

20. まるしげ農園

直売所名称	まるしげ農園		
所在地	伊都郡かつらぎ町笠田東 8 1 7 - 5		
TEL	0 7 3 6 - 2 2 - 1 2 4 1	FAX	0 7 3 6 - 2 2 - 1 2 4 1
運営主体	まるしげ農園		
営業時間	9 時 0 0 分 ~ 1 8 時 0 0 分		
定休日	毎週火曜日 (月 2 回程度 月・火曜日連休)、年末年始、盆		
アクセス	J R 笠田駅から約 0. 7 k m		
売場面積	1 2 坪		
レジ台数	1 台		
主な販売物	花、自家製菓子、自家製果実、加工品		
飲食施設	なし		
駐車場	あり (1 0 台)		
トイレ	あり		
障害者施設	なし		
当直売所の長所 (特徴)	・地元で収穫された果実を使い、お菓子などに加工している。 ・添加物を最小限にし、素材の甘みを重視した商品を作っている。		

21. 河南地区農産物加工販売組合（果夢果夢バザール）

直売所名称	河南地区農産物加工販売組合（果夢果夢バザール）		
所在地	伊都郡かつらぎ町寺尾 5 4 - 6 1		
TEL	0 7 3 6 - 2 2 - 8 9 9 3	FAX	0 7 3 6 - 2 2 - 8 9 9 3
運営主体	河南地区農産物加工販売組合		
営業時間	6 月 2 0 日 ~ 8 月 1 0 日は 7 時 3 0 分 ~ 1 2 時 0 0 分 （但し、もぎ取り観光のある日は終了まで） 1 2 月 2 0 日 ~ 2 9 日は 8 時 0 0 分 ~ 1 2 時 0 0 分		
定休日	1 2 月 3 0 日 ~ 6 月 1 9 日		
アクセス	J R 笠田駅から約 2. 8 k m		
主な販売物	果物 (桃、スモモ、びわ)、野菜、加工品 (味噌、こんにゃく、アイス、餅、パン、菓子、ちらし寿司他) 等		
飲食施設	なし		
駐車場	あり (2 0 台)		
トイレ	あり		

障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・かつらぎ町特産の桃の販売と、関西で唯一の桃のもぎとり観光をしている。 ・加工品は地域でとれる桃、柿、イチゴ、紫芋等を原料に使い、特に桃シャーベットと富有柿ケーキが人気である。 ・安心・安全で家族に食べさせたいお母さんの味を目指し、加工をしている。

22. こんにゃく工房

直売所名称	こんにゃく工房		
所在地	伊都郡かつらぎ町星川324		
TEL	0736-22-3433	FAX	0736-22-3433
営業時間	9時00分～18時00分		
定休日	年末年始（10日間程度休）		
アクセス	JR笠田駅から約4km		
売場面積	20坪		
レジ台数	1台		
主な販売物	米、野菜(キュウリ、ナス等)、果物(カキ、ミカン、リンゴな等)、加工品(こんにゃく、トマトソース、あんぼ柿、梅加工品、パン、洋菓子等)		
飲食施設	あり		
駐車場	あり(8台)		
トイレ	あり		
障害者施設	なし		
当直売所の長所 (特徴)	・天然酵母とこんにゃくの粉末を使用した自家製パンを販売している。 ・POSシステムを導入し、生産者と直結した販売体制で運営している。		

23. 九度山町ふるさと産品直売所

直売所名称	九度山町ふるさと産品直売所		
所在地	九度山町九度山518-1		
開店年月日	平成8年7月28日		
TEL	0736-54-4747	FAX	0736-54-4748
運営主体	財団法人 九度山町柿の里振興公社		
営業時間	9時00分～17時00分(秋期：9時00分～18時00分)		
定休日	年末・年始		

アクセス	南海高野線 九度山駅から約0.5 km			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名
	女性 名	女性 4名	女性 名	女性 4名
	計 名	計 4名	計 名	計 4名
売場面積	50坪			
レジ台数	1台			
主な販売物	柿（刀根早生・平核無・富有柿・その他柿）、野菜、卵、柿加工品、みかん、土産物、その他			
22年度売上高	29,114千円			
22年度来客数	12,004人			
客単価	2,425円/人			
売上傾向	横ばい			
仕入形態	仕入 15%、委託 85%(手数料15%)			
定期的イベント	毎年11月第2土・日曜日に大収穫祭 I N九度山			
飲食施設	なし			
出荷登録者数	120人			
駐車場	あり（15台）			
トイレ	あり			
障害者施設	なし			
当直売所の長所 (特徴)	・秋には、特産の「九度山の富有柿」をはじめ、多くの柿が店頭に並ぶ。 ・九度山町には世界遺産もあり、真田幸村ゆかりの地でもあることから、世界遺産関連、真田幸村関連のグッズも取りそろえている。 ・全国発送もおこなっている。			

24. どんどん広場

直売所名称	どんどん広場		
所在地	有田郡有田川町庄 1003-2		
開店年月日	平成12年5月2日		
TEL	0737-52-6661	FAX	0737-52-6623
運営主体	農事組合法人吉備農産物販売		
営業時間	9時00分～18時00分		

定休日	1月1日～1月4日			
アクセス	阪和道 有田 I C から約 4 km			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 3 名	男性 名	男性 名	男性 3 名
	女性 名	女性 1 1 名	女性 名	女性 1 1 名
	計 3 名	計 1 1 名	計 名	計 1 4 名
売場面積	1 0 0 坪			
レジ台数	3 台			
主な販売物	有田みかんをはじめ、季節のフルーツ、野菜、しいたけ等			
2 2 年度売上高	4 8 6 , 5 3 0 千円			
2 2 年度来客数	3 5 5 , 2 9 9 人			
客単価	1 , 3 6 9 円/人			
売上傾向	減少傾向(震災後)			
仕入形態	仕入 2 . 5 %、 委託 9 7 . 5 % (手数料 1 5 ～ 2 0 %)			
定期的イベント	周年祭、みかん・りんご祭			
飲食施設	なし			
出荷登録者数	6 0 0 人			
駐車場	あり (3 0 台)			
トイレ	あり			
障害者施設	障害者用トイレ			
当直売所の長所 (特徴)	・経営理念は太陽と土の恵み、新鮮と安心をとどける。 ・“生産者の顔が見える直売所” 地元農家が丹精込めて作った野菜や果物、花などが毎朝とれたてで出荷されている。 ・外見だけにとらわれず、流通、コスト抜きの農家価格、自家消費と同じ低農薬が「どンドン広場」のこだわりである。			

25. 有田川町林業活性化センター

直売所名称	有田川町林業活性化センター		
所在地	有田郡有田川町修理川 2 6 1 - 1		
開店年月	昭和 6 1 年 4 月		
T E L	0 7 3 7 - 3 2 - 2 9 3 9	F A X	なし
運営主体	有田川町修理川区 (区が委託した住民が運営)		

営業時間	9時00分～17時00分			
定休日	毎週月曜日			
アクセス	阪和道 有田ICから約9.4km/車で約25分			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 名	男性 名	男性 1名	男性 1名
	女性 名	女性 名	女性 名	女性 名
	計 名	計 名	計 1名	計 1名
売場面積	88坪			
レジ台数	1台			
主な販売物	野菜、果物、乾物、菓子、蜂蜜、漬物、醤油、民芸品、手芸品			
22年度売上高	4,075千円			
22年度来客数	3,159人			
客単価	1,300円/人			
売上傾向	減少傾向			
仕入形態	仕入 0%、 委託 100%			
定期的イベント	なし			
飲食施設	なし			
駐車場	あり（5～6台）			
トイレ	あり			
障害者施設	なし			
当直売所の長所 （特徴）	・地元でとれた新鮮野菜や、果物などを産地価格で販売している。 ・地元農家の農産物を取り扱い、地域の活性化に貢献している。 ・当所でしか扱っていない商品があり、リピーターがいる。			

26. しみず農林産物振興センター

直売所名称	しみず農林産物振興センター		
所在地	有田郡有田川町大字清水1224-2		
TEL	0737-25-1059	FAX	0737-25-1577
運営主体	財団法人 有田川町ふるさと開発公社		
営業時間	8時30分～17時00分（ただし繁忙期を除く）		
定休日	木曜日		
アクセス	阪和道 有田ICから約33.6km/車で約1時間13分		

従業員数	正社員		パート		その他	合 計
	男性	1名	男性	名	男性 名	男性 1名
	女性	1名	女性	2名	女性 名	女性 3名
	計	2名	計	2名	計 名	計 4名
レジ台数	1台					
主な販売物	山椒加工品、旬の野菜、紀州地鶏、手作りこんにやく、お土産、ジュース、地元工芸品など					
22年度売上高	記録なし					
22年度来客数	〃					
客単価	〃					
売上傾向	減少傾向					
定期的イベント	特になし					
飲食施設	なし					
出荷登録者数	約100人					
駐車場	あり（30台）					
トイレ	あり					
障害者施設	なし					
当直売所の長所 (特徴)	・有田川町しみずの農産物や工芸品などを一堂に集めている。とれたての地元産の野菜や、手作りこんにやくはとても人気があり、工芸品である安田紙、割りばし、そして生産量日本一を誇る山椒を使った佃煮、味噌はお土産にぴったりである。 ・隣接する清水高齢者生産活動センターでは、安田紙の紙すき体験、わらぼうり作り体験、木工体験ができ、その後には、しみず温泉健康館で温泉も楽しみ、宿泊施設「あさぎり」でこんにやく料理、山椒料理を賞味できる。					

27. 産直市場よってって 吉備店

直売所名称	産直市場よってって 吉備店		
所在地	有田郡有田川町天満216-2		
開店年月	平成16年6月		
TEL	0737-53-2888	FAX	0737-53-2880
運営主体	株式会社プラス		
営業時間	9時00分～19時30分		

定休日	1月1日～3日
アクセス	湯浅御坊道路 有田南ICそば
レジ台数	3台
主な販売物	野菜（きゅうり、青ねぎ、なすび等）、花卉類（仏花、小菊、苗等）、果物（温州みかん、いちご、レモン等）、加工品
飲食施設	なし
駐車場	あり（60台）
トイレ	あり
障害者用施設	駐車場、トイレ
当直売所の長所 （特徴）	・有田みかんや巨峰などの果物、梅干やはちみつなどの加工品を豊富に品揃えしている。 ・花卉類も豊富にあり人気がある。 ・その日の売り数を確認できる音声応答システムを利用し、売行きに応じた納品補充ができるため、品切れや品薄状態にならないよう配慮している。

28. JAありだファーマーズマーケット「ありだっこ」

直売所名称	ＪＡありだファーマーズマーケット「ありだっこ」			
所在地	有田郡有田川町土生３３－１			
開店年月日	平成２２年１０月１６日			
ＴＥＬ	０７３７－５３－１３１１	FAX	０７３７－５２－８１１０	
運営主体	ありだ農業協同組合			
営業時間	９時００分～１８時００分			
定休日	水曜日			
アクセス	阪和道有田ＩＣから約６００m			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 ３名	男性 名	男性 名	男性 ３名
	女性 名	女性 １０名	女性 名	女性 １０名
	計 ３名	計 １０名	計 名	計 １３名
売場面積	１２７坪			
レジ台数	５台			
主な販売物	果物、野菜、加工食品、民芸品			
２２年度売上高	１３１,１８０千円(平成２２年１０/１３～３/３１)			

22年度来客数	88,049人
客単価	1,489円/人
売上傾向	横ばい
仕入形態	仕入 75%、委託 25%(手数料15%)
定期的イベント	毎週火曜日お米の日
飲食施設	なし
出荷登録者数	962人
駐車場	あり(88台)
トイレ	あり
障害者施設	トイレ
当直売所の長所 (特徴)	・安全・安心な地場産農産物や地域色豊かな加工品・民芸品をお手頃の価格で直接消費者に提供している。 ・安全・安心ということで、生産履歴の記帳と残留農薬の検査を実施している。

29. 滝原温泉ほたるの湯物産販売所

直売所名称	滝原温泉ほたるの湯物産販売所		
所在地	有田郡広川町下津木1539		
TEL	0737-67-2641	FAX	0737-67-2661
運営主体	広川町交流促進センター滝原温泉ほたるの湯		
営業時間	10時30分～21時00分		
定休日	第2木曜日		
アクセス	湯浅御坊道路 広川南ICから約5km		
従業員数	滝原温泉ほたるの湯の従業員が対応		
売場面積	10坪		
レジ台数	1台		
主な販売物	地元農産物、土産品、加工食品など		
定期的イベント	なし		
飲食施設	あり、滝原温泉ほたるの湯内に		
駐車場	あり(100台) 滝原温泉ほたるの湯の駐車場を使用		
トイレ	あり、滝原温泉ほたるの湯のトイレを使用		
障害者施設	なし		
当直売所の長所	新鮮な農産物や、加工食品などを販売している。		

(特徴)	
------	--

30. 広川ビーチ物産センター

直売所名称	広川ビーチ物産センター			
所在地	有田郡広川町山本971-1			
開店年月	平成5年3月			
TEL	0737-64-1588	FAX	0737-63-3085	
運営主体	広川町立ふれあい館運営委員会			
営業時間	9時00分～17時00分			
定休日	年末年始			
アクセス	JR広川ビーチ駅に隣接			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名
	女性 名	女性 5名	女性 名	女性 5名
	計 名	計 5名	計 名	計 5名
レジ台数	1台			
主な販売物	野菜、果実、切り花、その他			
22年度売上高	12,200千円			
22年度来客数	9,567人			
客単価	1,270円/人			
売上傾向	横ばい			
定期的イベント	年4回、ふれあい朝市			
飲食施設	あり			
出荷登録者数	40人			
駐車場	あり（4台）			
トイレ	あり			
障害者施設	盲導犬の受入、車椅子対応トイレ、車椅子対応スロープ			
当直売所の長所 (特徴)	・地元の旬の野菜を中心に品揃えが豊富である。 ・お客様の予約・希望する商品は納得のいくものを提供している。			

31. 産直市場よってって ごぼう店

直売所名称	産直市場よってって ごぼう店
-------	----------------

所在地	御坊市藤田町吉田５３７－１		
開店年月	平成１７年１１月		
ＴＥＬ	０７３８－２４－１２５０	FAX	０７３８－２４－１２９９
運営主体	株式会社プラス		
営業時間	９時００分～１８時３０分		
定休日	１月１日～３日		
アクセス	ＪＲ御坊駅から約１．５km		
レジ台数	４台		
主な販売物	野菜（きゅうり、ミニトマト、青ねぎ等）、花卉類（小菊、びしゃこ、スターチス等）、果物（温州みかん、いちご、早生みかん等）、その他加工品		
飲食施設	なし		
駐車場	あり（１００台）		
トイレ	あり		
障害者施設	トイレ、駐車場		
当直売所の長所 (特徴)	・日本有数の生産地であるスターチスをはじめ、花卉類の栽培が盛んで色とりどりの花卉類が豊富である。 ・果菜類や豆類を中心として四季を通じて野菜の栽培も盛んであり、店内には新鮮で安価な野菜類が豊富である。 ・地元で水揚げされた魚を中心に鮮魚売場も充実し、店内での調理にも対応している。 ・その日の売り数を確認できる音声応答システムを利用し、売行きに応じた納品補充ができるため、品切れや品薄状態にならないよう配慮している。		

32. 黒竹の里ぴかいち

直売所名称	黒竹の里ぴかいち			
所在地	日高郡日高町萩原１４００			
ＴＥＬ	０７３８－６３－３５２８	FAX	０７３８－６３－３５２８	
運営主体	日高農産物組合			
営業時間	平日：９時００分～１５時００分　土日祝：９時００分～１７時００分			
定休日	年始			
アクセス	ＪＲ紀伊内原駅から約２．７km			
従業員数	正社員	パート	その他	合　計

	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名
	女性 名	女性 3名	女性 名	女性 3名
	計 名	計 3名	計 名	計 3名
売場面積	15坪			
レジ台数	1台			
主な販売物	地元（原谷産）米、地元野菜、味噌、魚干物、卵、こんにゃく			
売上傾向	横ばい			
仕入形態	仕入 10%、委託 90%(手数料15%)			
定期的イベント	なし			
飲食施設	なし			
出荷登録者数	15人			
駐車場	あり（20台）			
トイレ	あり			
障害者施設	なし			
当直売所の長所 (特徴)	・学童農園の設置も行っており、田植え体験などで修学旅行生や企業の福利厚生活動としての受入実績がある。 ・黒竹民芸品販売、各地域のグループによる特産品を使ったものづくり等、色々と取り組んでいる。 ・老人の方々にも楽しく参加して頂き、全国に発信できる「まち」を目指して頑張っている。熊野古道の散策と合わせ、ぜひ一度立ち寄って欲しい。			

33. 比井崎漁協直販店

直売所名称	比井崎漁協直販店			
所在地	日高郡日高町阿尾１４３			
TEL	０７３８－６４－３４００	FAX	０７３８－６４－３１８３	
運営主体	比井崎漁業協同組合			
営業時間	８時３０分～１６時３０分			
定休日	水曜日			
アクセス	ＪＲ紀伊内原駅から約８．２km/車で約２５分			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名
	女性 名	女性 ２名	女性 名	女性 ２名

	計 名	計 2名	計 名	計 2名
売場面積	10坪			
レジ台数	1台			
主な販売物	鮮魚、塩干類、野菜			
売上傾向	横ばい			
仕入形態	仕入 30%、委託 70%(手数料15～20%)			
定期的イベント	なし			
飲食施設	あり			
出荷登録者数	25人			
駐車場	あり(50台)、比井崎漁港の駐車場			
トイレ	あり			
障害者施設	なし			
当直売所の長所 (特徴)	早朝に水揚げされた新鮮なアジやサバをはじめ、漁協の加工場で作ったアジ、サバ、タチウオ等の干物、日高地方で収穫された野菜、花、果物の販売を行っている。			

34. さわやか日高

直売所名称	さわやか日高			
所在地	日高郡日高町荊木5			
開店年月	平成18年11月			
TEL	0738-63-1333	FAX	0738-63-3466	
運営主体	グリーン日高農業協同組合			
営業時間	9時00分～19時00分			
定休日	年始（1月1日～3日）			
アクセス	JR紀伊内原駅から約2.5km			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 1名	男性 名	男性 名	男性 1名
	女性 名	女性 3名	女性 名	女性 3名
	計 1名	計 3名	計 名	計 4名
売場面積	50坪			
レジ台数	1台			
主な販売物	野菜、果物、加工品			

売上傾向	横ばい
仕入形態	仕入 40%、委託 60%(手数料15~20%)
定期的イベント	創業祭
飲食施設	なし
出荷登録者数	100人
駐車場	あり (Aコープと兼用で60台)
トイレ	あり (Aコープ内に)
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・地元で栽培された温州みかんなどの果物やウスイエンドウ・ミニトマト・きゅうりなどの野菜のほか、漬物・コンニャク・味噌・豆腐などの加工品は、農家が作ったものや地元業者のこだわり商品も販売している。 ・地元比井崎漁協のアジ・サバ・カマスの塩干物なども販売している。

35. 共栄花の里産品所

直売所名称	共栄花の里産品所							
所在地	日高郡印南町宮ノ前							
開店年月日	平成１１年１１月２３日							
TEL	０７３８－４３－０３４０	FAX	０７３８－４３－０３４０					
運営主体	共栄花の里産品所運営委員会							
営業時間	８時００分～１８時００分（冬期～１７時００分）							
定休日	木曜日							
アクセス	阪和自動車道 印南ＩＣから約８km/車で１０分							
従業員数	正社員		パート	その他	合 計			
	男性	名	男性	２名	男性	３名	男性	５名
	女性	名	女性	２名	女性	名	女性	２名
	計	名	計	４名	計	３名	計	７名
売場面積	２０坪							
レジ台数	１台							
主な販売物	野菜、花卉類、果樹、米、菓子							
２２年度売上高	１８，０００千円							
２２年度来客数	２０，０００人							
客単価	９００円/人							

売上傾向	横ばい
仕入形態	仕入 ５０％、 委託 ５０％(手数料２０％)
定期的イベント	毎年４月中旬に「れんげまつり」が開催されるほど、れんげの花もきれいな所である。
飲食施設	なし
出荷登録者数	４０人
駐車場	あり（５台）
トイレ	あり
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・周辺の農家で作られた花やエンドウ、ミニトマト、米等の特産品が格安で販売されている。 ・れんげ草を肥料に作られたれんげ米も販売している。

36. フレッシュマート

直売所名称	フレッシュマート			
所在地	日高郡印南町印南２６１－１			
開店年月	昭和６３年８月			
ＴＥＬ	０７３８－４２－１３５６	FAX	０７３８－４２－１３５６	
運営主体	みなべいなみ農業協同組合			
営業時間	９時００分～１７時００分			
定休日	盆、年末年始			
アクセス	阪和自動車道 印南ＩＣから約１．４km			
従業員数	正社員	パート	その他	
	男性 ０．５名	男性 ２名	男性 名	男性 ２．５名
	女性 名	女性 ３．５名	女性 名	女性 ３．５名
	計 ０．５名	計 ５．５名	計 名	計 ６名
	従業員数に端数があるのは、同じみなべいなみ農業協同組合が経営する「ほんまもんふるさと産地直売所」との兼任があるため。			
売場面積	２５．７坪			
レジ台数	２台			
主な販売物	ミニトマト、花卉、豆類、スイカ、メロン、その他果物、梅干			
２２年度売上高	１０４，０６２千円			

22年度来客数	58,965人
客単価	1,764円/人
売上傾向	増加傾向
仕入形態	仕入 70%、委託 30%(手数料18%)
定期的イベント	特になし
飲食施設	なし
出荷登録者数	198人
駐車場	あり(10台)
トイレ	あり
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・特産品である甘〜いミニトマト、花、豆類をはじめ、季節には、西瓜、メロン等、『新鮮』『安全』な旬の農産物を直売している。 ・JAみなべいなみのインターネット直売店『南高梅の郷JAみなべいなみ』にて特産品を購入できる。

37. ビーンズ直売所

直売所名称	ビーンズ直売所		
所在地	日高郡印南町明神川六段660		
TEL	0738-44-0080	FAX	0738-44-0080
営業時間	(火〜金) 8時00分〜13時00分 (土・日) 10時00分〜15時00分		
定休日	月曜日、第4日曜日		
アクセス	阪和自動車道 御坊ICから約5km/車で約15分		
レジ台数	1台		
主な販売物	スイカ、ミニトマト、豆(ウスイ、きぬさや)		
売上傾向	増加傾向、横ばい、減少傾向		
定期的イベント	なし		
飲食施設	なし		
駐車場	あり(10台)		
トイレ	あり		
障害者施設	なし		
当直売所の長所	・地元にこだわり、新鮮でおいしく安全・安心な農作物をお客様にお届けした		

(特徴)	いとがんばっている。 ・地元産「おはなはん」のおいしい米を販売している。
------	--

38. ほんまもんふるさと産地直売所

直売所名称	ほんまもんふるさと産地直売所			
所在地	日高郡みなべ町東吉田 2 7 4 - 1			
開店年月	平成 1 5 年 2 月			
TEL	0 7 3 9 - 7 2 - 1 1 9 1	FAX	0 7 3 9 - 7 2 - 1 1 8 2	
運営主体	みなべいなみ農業協同組合			
営業時間	9 時 0 0 分 ~ 1 8 時 0 0 分			
定休日	年末年始			
アクセス	阪和自動車道　みなべ I C から約 0. 5 km			
従業員数	正社員	パート	その他	合　計
	男性　0. 5 名	男性　　2 名	男性　　名	男性　2. 5 名
	女性　　名	女性　3. 5 名	女性　　名	女性　3. 5 名
	計　0. 5 名	計　5. 5 名	計　　名	計　　6 名
	従業員数に端数があるのは、同じみなべいなみ農業協同組合が経営する「フレッシュマート」との兼任があるため。			
売場面積	5 3 坪			
レジ台数	2 台			
主な販売物	青梅、梅干、野菜、豆類、スイカ、メロン、花卉、梅酒、その他			
2 2 年度売上高	1 2 7, 1 9 5 千円			
2 2 年度来客数	7 9, 8 4 6 人			
客単価	1, 5 9 3 円/人			
売上傾向	増加傾向			
仕入形態	仕入　7 0 %、　　委託　3 0 % (手数料 1 8 %)			
定期的イベント	観梅時期に P R イベント			
飲食施設	あり			
出荷登録者数	1 9 8 人			
駐車場	あり（1 2 台）			
トイレ	あり			
障害者施設	なし			

当直売所の長所 (特徴)	・南部梅林で収穫した“ほんまもん”の南高梅の梅干をはじめ、季節にはいなみの特産品である花・豆・西瓜（紅小玉）・ネットメロンなどの旬の特産物などを販売し、本当の物“ほんまもん”が持つ力強さで、食にたいする私たちの心と文化を発信している。 ・『新鮮』『安全』な旬の農産物を直売している。
-----------------	--

39. 美山ふるさと産品展示販売所

直売所名称	美山ふるさと産品展示販売所		
所在地	日高郡日高川町大字初湯川1906-6		
TEL	0738-57-0113	FAX	0738-57-0113
営業時間	8時30分～17時30分（11月～2月末は17時00分まで）		
定休日	火曜日（祝日は営業）		
アクセス	湯浅御坊道路 川辺ICから約27km/車で約1時間15分		
レジ台数	1台		
主な販売物	きのこ類、菓子、漬物、総菜、花木、味噌、餅、茶、山菜、果物ほか		
22年度来客数	約80,000人		
定期的イベント	なし		
飲食施設	なし		
駐車場	あり（10台）		
トイレ	あり		
障害者施設	車椅子対応スロープ		
当直売所の長所 (特徴)	・日高川町美山のしいたけは、古くから原木により栽培されてきた。乾燥椎茸は贈答用として珍重されている。 ・イタドリの漬物「ごんちゃん漬け」などの漬物や、ジャム、アイスクリームなど地元でとれた食材を使った加工品も人気である。		

40. 清流ふるさと産品センター井藤や

直売所名称	清流ふるさと産品センター井藤や		
所在地	日高郡日高川町大字早藤424-5		
開店年月日	平成14年10月		
TEL	0738-52-1108	FAX	0738-52-0735
運営主体	個人経営（伊藤満人）		

営業時間	8時00分～18時00分（冬期～17時30分）
定休日	水曜日
アクセス	湯浅御坊道路 川辺ICから約4km
従業員数	経営者夫妻で経営
売場面積	15坪
レジ台数	1台
主な販売物	野菜、花卉類、果物
売上傾向	減少傾向
仕入形態	仕入 0%、 委託 100%（手数料20%）
定期的イベント	なし
飲食施設	なし
出荷登録者数	20人
駐車場	あり（10台）
トイレ	あり
障害者施設	なし
当直売所の長所 （特徴）	・野菜、花、果物等良いものを安く販売している。 ・温泉「きさくの湯」がすぐ近くにある。

41. 秋津野直売所「きてら」

直売所名称	秋津野直売所「きてら」		
所在地	田辺市上秋津1487-1		
創立年月日	平成11年4月1日		
TEL	0739-35-1177	FAX	0739-20-5254
運営主体	農業法人株式会社『きてら』		
営業時間	9時00分～16時30分		
定休日	無休		
アクセス	阪和自動車道 南紀田辺ICから約5.4km		
売場面積	約24坪		
レジ台数	1台		
主な販売物	みかん、オレンジ、柑橘、野菜、加工品、オリジナルジュース、味噌、醤油、梅干し、他		
売上傾向	増加傾向、横ばい、減少傾向		

定期的イベント	同地区に併設するグリーンツーリズム施設“秋津野ガルテン”との連携で、レストラン、宿泊、農業体験など一日楽しむことができ、田舎を感じて頂ける。
飲食施設	あり（喫茶店）
駐車場	あり（30台）
トイレ	あり
障害者施設	トイレ
当直売所の長所 (特徴)	・住民が自ら出資し、1,000万円の資本金で株式会社を設立し、運営を行っている。 ・地元の産品・商品にこだわった販売を行っている。 ・1年中、みかん・オレンジ・柑橘が多種収穫できる産地を生かし、年中店頭で柑橘が並んでいる。 ・店頭販売と共に全国への柑橘類のネット販売・宅配も人気をよんでいる。 ・地元農家有志が設立させて俺ん家ジュース倶楽部では、地元産の柑橘だけを使ったジュースをつくり、きてらで販売している。

42. 産直市場よってって いなり店

直売所名称	産直市場よってって いなり店		
所在地	田辺市稲成町270-1		
開店年月日	平成14年5月16日		
TEL	0739-25-4741	FAX	0739-81-1823
運営主体	株式会社プラス		
営業時間	9時00分～18時00分		
定休日	1月1日～3日		
アクセス	阪和自動車道 南紀田辺ICすぐ		
レジ台数	3台		
主な販売物	野菜（きゅうり、トマト、ミニトマト等）、花卉類（小菊、びしゃこ、大菊等）、果物（早生みかん、いちご、清美柑等）、加工品		
飲食施設	あり（産直バイキングレストラン「八十八家」）		
駐車場	あり（100台）		
トイレ	あり		
障害者施設	駐車場		
当直売所の長所	・新鮮な野菜、果物、花の他、海産物も豊富な地域のため、鮮魚や干物なども		

(特徴)	豊富に取り揃えている。
------	-------------

43. J A紀南ファーマーズマーケット「紀菜柑（きさいかん）」

直売所名称	J A紀南ファーマーズマーケット「紀菜柑（きさいかん）」				
所在地	田辺市秋津町752-1				
開店年月日	平成19年3月19日				
TEL	0739-81-0831	FAX	0739-22-8524		
運営主体	紀南農業協同組合				
営業時間	9時00分～18時00分				
定休日	年末年始				
アクセス	阪和自動車道 南紀田辺ICを降りて国道42号線を白浜 方面へ約1km、龍神方面へ降りてすぐ。				
従業員数	正社員		パート	その他	合 計
	男性 3名	男性 3名	男性 名	男性 6名	
	女性 名	女性 21名	女性 名	女性 21名	
	計 3名	計 24名	計 名	計 27名	
売場面積	220坪				
レジ台数	6台				
主な販売物	花き、野菜、果実、加工品、民芸品、米、水産物、畜産物、その他				
22年度売上高	530,000千円				
22年度来客数	335,738人				
客単価	1,588円/人				
売上傾向	増加傾向				
仕入形態	仕入 30%、 委託 70%(手数料15%)				
定期的イベント	・みかん、梅、花等の収穫体験や、フラワーアレンジ、寄せ植え教室など農業に関する体験イベントを開催している。				
飲食施設	なし				
出荷登録者数	800人				
駐車場	あり（120台）				
トイレ	あり				
障害者施設	なし				
当直売所の長所	・年間を通じて柑橘類が出荷され、果実等は試食品を用意しているので、納得				

(特徴)	の味を買って頂ける。 ・農家手作りの我が家の味、太刀魚寿司、チラシ寿司、お味噌、漬物、パン等 はできる限り地元の原材料の使用にこだわっている。 ・J A紀南製の梅干しやお茶製品も充実している。
------	--

44. 龍神は〜との店

直売所名称	龍神は〜との店			
所在地	田辺市龍神村龍神１６５			
開店年月日	平成１９年４月１９日			
TEL	０７３９－７９－８０６８	FAX	０７３９－７９－８０６８	
運営主体	任意団体龍神は〜と			
営業時間	１０時００分～１６時００分			
定休日	木曜日			
アクセス	阪和自動車道高野山から高野龍神スカイラインを約４３km/車で１時間５分			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名
	女性 名	女性 ２名	女性 名	女性 ２名
	計 名	計 ２名	計 名	計 ２名
売場面積	１０坪			
レジ台数	１台			
主な販売物	地元産米、野菜、柚べし、龍神の特産物、米粉とおからのかりんとう等			
２２年度売上高	３，０００千円			
２２年度来客数	２，５００人			
客単価	１，２００円/人			
売上傾向	減少傾向			
仕入形態	仕入 ５０％、 委託 ５０％(手数料２０％)			
定期的イベント	なし			
飲食施設	あり			
出荷登録者数	１５人			
駐車場	あり（５台）			
トイレ	なし			
障害者施設	なし			

当直売所の長所 (特徴)	・地元産の加工品にこだわり、添加物を使用しない安心な商品を販売している。 ・全国から選ばれた「いいもの」も扱っている。 ・オリジナル商品の開発に努力し、より一層安心して召し上がって頂けるものを常に考えている。 ・国道沿いに面しており、高野龍神スカイラインへのお客様、高野山から白浜・本宮方面に行くお客様に立ち寄って頂ける。
-----------------	--

45. もぎたて広場 彦五郎

直売所名称	もぎたて広場 彦五郎							
所在地	西牟婁郡上富田町生馬 5 2 3－3							
開店年月日	平成16年11月13日							
TEL	0739－47－4704	FAX	0739－47－4704					
運営主体	上富田町認定農業者連絡協議会							
営業時間	9時00分～16時00分							
定休日	盆、年末年始							
アクセス	JR朝来駅から約2.5km/車で約6分							
従業員数	正社員		パート	その他	合 計			
	男性	1名	男性	名	男性	1名		
	女性	1名	女性	1名	女性	名	女性	2名
	計	2名	計	1名	計	名	計	3名
レジ台数	1台							
主な販売物	地元野菜、みかん、梅、加工品、花							
定期的イベント	田植体験、稲刈体験、 筍堀体験、梅酒づくり体験							
飲食施設	なし							
駐車場	あり（20台）							
トイレ	あり							
障害者施設	トイレ							
当直売所の長所 （特徴）	・常に新鮮な品物を提供しよう心がけている。 ・その日のおすすめ商品を詰め合わせて週一回（月1回も可）届けている。							

46. 口熊野上富田の駅こーなん産直館

直売所名称	口熊野上富田の駅こーなん産直館
-------	-----------------

所在地	西牟婁郡上富田町岩田 2 3 5 0 - 1		
TEL	0 7 3 9 - 8 3 - 2 8 5 7	FAX	0 7 3 9 - 8 3 - 2 8 6 0
運営主体	コーナン商事株式会社		
営業時間	9 時 0 0 分 ~ 2 0 時 0 0 分		
定休日	なし		
アクセス	J R 朝来駅から約 4. 8 km / 車で約 1 0 分		
レジ台数	4 台		
主な販売物	農産物（野菜、果物、米、花）、鮮魚、加工食品、おみやげ、梅干し、海産物、雑貨		
飲食施設	なし		
駐車場	あり（2 0 0 台）		
トイレ	あり		
障害者施設	駐車場、トイレ		
当直売所の長所 (特徴)	・新鮮なとれたて野菜や果物が、地元はもちろん和歌山紀北より毎日入荷している。 ・地元加工食品も充実している。 ・特に和歌山南漁協直送のとれたて鮮魚が大好評である。		

47. ひまわり会

直売所名称	ひまわり会		
所在地	西牟婁郡すさみ町周参見 3 9 3 8 （J A 紀南すさみ支所館 内）		
TEL	0 7 3 9 - 5 5 - 2 0 0 6	FAX	0 7 3 9 - 5 5 - 3 9 0 7
運営主体	生産者の任意団体		
営業時間	9 時 0 0 分 ~ 1 3 時 0 0 分		
定休日	火曜日、木曜日、金曜日、日曜日、年末年始		
アクセス	J R 周参見駅から約 0. 8 km		
従業員数	出荷者が当番制で運営		
売場面積	5 坪		
レジ台数	2 台		
主な販売物	地元野菜、加工品（さんま寿司他、仕入れ品、花木（びしゃこ）		
売上傾向	横ばい		
仕入形態	仕入 2 0 %、委託 8 0 % (手数料、当番をする出荷者 1 0 %、当番を		

	しない出荷者 15%)
定期的イベント	夏に夕市、12月に周年記念イベント
飲食施設	なし
出荷登録者数	60人
駐車場	あり、JA紀南すさみ支所の駐車場
トイレ	あり、JA紀南すさみ支所のトイレ
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・毎回、会員が当番制で接客しており、生産者が直接お客様の問合せに応じている。 ・綺麗な空気と水、大自然に囲まれた周参見の大地で採れた野菜、すさみ伝統料理さんま寿司も販売している。 ・地元保育所、小中学校、病院へ新鮮な野菜を納品している。 ・地域行事にも積極的に参加し、姉妹都市の寝屋川市へも出店している。

48. しおさい館にこここ市

直売所名称	しおさい館にこここ市			
所在地	西牟婁郡白浜町日置3039			
開店年月日	平成13年3月20日			
TEL	0739-87-2067	FAX	0739-87-2067	
運営主体	紀南農業協同組合女性会日置川ブロック			
営業時間	8時30分～13時00分（日曜・祭日は15時00分まで）			
定休日	火曜日、年末年始			
アクセス	JR周参見駅から約7km/車で約11分			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 名	男性 名	男性 4 名	男性 4 名
	女性 1 名	女性 名	女性 7 4 名	女性 7 5 名
	計 1 名	計 名	計 7 8 名	計 7 9 名
	その他は出荷登録者が交代で販売(レジ打ち)している人数である。			
売場面積	16坪			
レジ台数	2台			
主な販売物	野菜（青菜、根菜、豆類）、加工品（梅、寿司、漬物）、切花、果実（柑橘類）、穀物、工芸品			

22年度売上高	20,000千円
22年度来客数	27,000人
客単価	750円/人
売上傾向	横ばい
仕入形態	仕入 11%、委託 89%(手数料15~20%)
定期的イベント	・年に10回程度感謝デーを設けて、かゆやぜんざい、新米等のサービスをしている。 例えば、母の日セール、父の日セール、敬老の日セール、ハロウィーンセール、年末売り出し、バレンタインセール、周年記念日セール
飲食施設	なし
出荷登録者数	80人
駐車場	隣接の道の駅にあり(20台)
トイレ	隣接の道の駅にあり
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・生産履歴の管理により、安心安全で、朝採りの新鮮で安価な農産物を販売している。 ・毎日、生産者が当番制でレジに立ち、訪れた方と直接話をして、珍しい野菜等の調理方法を伝授している。 ・遠方の方にも代金引換で直販している。

49. 産直市場よってって 新宮店

直売所名称	産直市場よってって 新宮店		
所在地	新宮市新宮字鴻田8001-52		
開店年月	平成18年3月		
TEL	0735-22-7788	FAX	0735-22-9060
運営主体	株式会社プラス		
営業時間	9時00分~20時00分		
定休日	1月1日~3日		
アクセス	JR新宮駅から約2.6km/車で約6分		
レジ台数	4台		
主な販売物	野菜(きゅうり、青ねぎ、とまと等)、花卉類(香の花、小菊、苗等)、果物(早生みかん、温州みかん、八朔柑等)、加工品		

飲食施設	なし
駐車場	あり（70台）
トイレ	あり
障害者施設	駐車場、トイレ
当直売所の長所 (特徴)	・小規模な農家が多いが、小規模ならではの珍しい農産物があり選ぶ楽しさがある。 ・POPやレシピも豊富に用意し、美味しい調理の仕方などを提供している。 ・海産物や梅干などの加工品も豊富に品揃えしている。

50. 那智駅交流センター

直売所名称	那智駅交流センター			
所在地	東牟婁郡那智勝浦町大字浜ノ宮 3 6 1－2			
開店年月日	平成1 6 年1 2 月1 日			
TEL	0 7 3 5－5 2－9 2 0 1	FAX	0 7 3 5－5 2－9 2 0 2	
運営主体	那智勝浦町			
営業時間	1 0 時0 0 分～2 1 時0 0 分			
定休日	月曜日（祝、祭日の場合は火曜日休館）			
アクセス	J R 那智駅隣			
従業員数	正社員	パート	その他	合 計
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名
	女性 名	女性 2 名	女性 名	女性 2 名
	計 名	計 2 名	計 名	計 2 名
売場面積	1 2 坪			
レジ台数	1 台			
主な販売物	野菜（葱、大根等）、米、魚、寿司、弁当、お茶、梅干し			
2 2 年度売上高	4 9, 0 0 0 千円			
2 2 年度来客数	7 1, 0 0 0 人			
客単価	7 0 0 円			
売上傾向	増加傾向			
仕入形態	仕入 0 %、 委託 1 0 0 % (手数料1 5 %)			
定期的イベント	なし			
飲食施設	なし			

出荷登録者数	272人
駐車場	あり（68台）
トイレ	あり
障害者施設	トイレ
当直売所の長所 (特徴)	・生産者が毎日、収穫した新鮮な農産物を直接センターに搬入している。 ・新鮮で少量、安価で100円から300円が主体である。 ・ブルービーチ那智（海水浴場：7～8月）までは徒歩2分で、2kmに及ぶ砂浜や太平洋の景観、潮の息吹が素晴らしい。

51. 古座川産品直売所「みんなの店」

直売所名称	古座川産品直売所「みんなの店」			
所在地	東牟婁郡古座川町明神436			
開店年月日	平成15年6月			
TEL	0735-78-0234	FAX	0735-78-0234	
運営主体	生産者の任意団体			
営業時間	4月～9月：13時00分～18時00分 10月～3月：13時00分～17時00分			
定休日	水曜日、盆（8月14日～16日）、正月（12月31日～1月5日）			
アクセス	JR古座駅から約8km/車で18分			
従業員数	正社員	パート	その他	合計
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名
	女性 名	女性 2名	女性 名	女性 2名
	計 名	計 2名	計 名	計 2名
売場面積	10坪			
レジ台数	1台			
主な販売物	野菜、農産加工品、花、果実、工芸品、土産物			
売上傾向	減少傾向			
仕入形態	仕入 0%、委託 100%(手数料17%)			
定期的イベント	盆前と年末に生産者が各自で店前で売り出し			
飲食施設	なし			
出荷登録者数	20人			
駐車場	あり（30台）			

トイレ	あり
障害者施設	なし
当直売所の長所 (特徴)	・安全、安心、安価をモットーに、生産者の顔が見え、生産者と消費者が信頼で結ばれる地産地消を目指している。 ・上流域の出荷を支援するために、町営ふるさとパスと提携し、産品の運搬を行っている。

第3章 農産物直売所」の現在の問題点

アンケート調査及びヒアリング調査による和歌山県下の農産物直売所の問題点をまとめると次のような結果である。

1. 商品に関するもの

商品の品揃えが充実していないという問題が最も多い。

商品陳列を管理するコントロール機能が欠如しているのも、生産者が自由勝手に持ち込み並べている結果、「おなじ商品がかさなる」「商品アイテムが少ない」「日によって入荷品量に増減がある」という問題が起こっている。経営主体が農協や株式会社以外のところでこの問題は顕著である。

また、地域の季節限定の果実の販売に偏っており、他の時期の売上高が少ないという問題も抱えている。特に和歌山県の代表的果実である梅、みかん、柿、桃等の産地に偏った農産物直売所が見受けられる。

他に少数の農産物直売所ではあるが「眼玉商品になるものがない」「切花が少ない」「加工品が少ない」「地元産の品数が少ない」という問題も散見される。

2. 来客数・売上に関するもの

来客数が減少しその結果、売上高が減少しているのが大きな問題になっている。その原因は多くあるが、近くに他の直売所等が出店し、競争が激化し客数が減少していることや、スーパーにも生産者コーナーの導入が増えつつあるのが主な原因と考えられている。

観光地に近い農産物直売所では、東日本大震災以降の自粛ムードで、観光客が減少し、売り上げが減少していることも原因の一つに挙げられている。

売上高が減少した結果、従業員の給料を支払いかねている農産物直売所や閉店時刻を早めた農産物直売所もある。

3. 客層に関するもの

安心・安全な商品が少ない、安価でない、特徴のある商品がない等の理由で、遠方からの客が少なく、町内の客が中心である農産物直売所もある。また、店舗が主要道路沿いにないので、観光客が少なく客層が限定されるというような問題がある。

4. 立地に関するもの

駐車場が道路を隔てた場所にあり不便なため来店客が少ない、店舗が道路のカーブの内側にあるため走行中の車内から見つけにくく、一見客の確保が困難である、店舗前の交通量が少ない、辺鄙な場

所に立地しているので固定客がほとんどで観光客等の一見客はほとんど来ないという農産物直売所もあるが、これらの問題点は店舗設置時に想定される問題である。

5. 生産者に関するもの

生産者の高齢化により、出荷登録者数・出品数が減少しているという問題がある半面、生産者の数は多いが優良生産者の確保が困難であるという問題を抱えている。

また生産者の高齢化により世代交代した若年農業者は、農産物直売所に適する多品種少量生産より、少品種大量生産を好み、農産物直売所への出荷が減少しているという問題も起こっている。

6. 人材に関するもの

農産物直売所の従業員の人材育成がなされていない。応対話法のまずさ、5Sの不徹底、分掌事項の不明確、店長の指導力の不足等が顕著である。

7. 設備に関するもの

零細な農産物直売所の中には、個々の生産者のバーコードがなく、手作業で生産者ごとの売り上げの仕分け作業をしているので、非常に非効率である。

なかにはレジのない農産物直売所も散見される。

第4章 直売所の将来の問題点

1. 商品に関するもの

生産者をコントロールする組織ができていないので、野菜等は収穫の多い時は集中して出荷され売れ残り、少ない時は不足するというムラが起きる。

高齢化の進展により地元で農業をする人が少なくなっているため、地元産の野菜だけを販売するのが困難になる。

他の農産物直売所との競争が激化し、来客数の減少による売上高の減少により、生産者の意欲が薄れ出荷アイテムが減少する。

2. 来客数・売上に関するもの

近隣に大型のファーマーズマーケットが出店し、来客数、生産者、出品物の確保をどのようにしていくかが今後の問題である。

利用客が年々減少しているため、今後も売上の減少が懸念される。

地元で観光の目玉となるものの開発がまだ進んでいないため、主たる買い物客である観光客は減少する傾向にある。

3. 立地に関するもの

店舗の立地条件の悪さが問題となってくる。

4年後に南進する阪和高速道路が開通するのでどのような影響が出るか心配である。

4. 生産者に関するもの

生産者の高齢化にどのように対処していくか。生産者の減少をどうして防ぐか。

5. 設備に関するもの

売上増加策を講じ売上が増加したとき売場面積が狭くなる、レジ1台では売り上げが伸びない、駐車場が狭くなるという懸念がある。

6. 農産物直売所の役割に関するもの

農産物直売所を取り巻く経営環境の変化が激しく、農産物直売所が地域で果たす役割を、開設当初の役割から変更していく必要がある。

第5章 農産物農産物直売所の今後のあるべき姿

スーパーなどの一般小売業と競合できる規模の農産物直売所が全国的に展開され、食品流通においてその地位を確立するにつれて、地域によっては農産物直売所間の競争も激しくなり、個々の農産物直売所に経営運営の理念が問われる様になってきている。

特に、ファーマーズマーケットに代表される売上額重視の大規模農産物直売所が都市近郊に増えるにつれて、従来から全国各地域で様々な地域の課題を背負って努力してきた農産物直売所が、今後もその設立理念を大切にするのか、あるいはより売上を伸ばす方向を選択するのか、方針の決断が求められる時期になっている。

農産物直売所が発展期に入った平成10年前後に、農産物直売所事業を単なる新たな小売ビジネスと捉えて、地元へのこだわりを捨てて農産物直売所の規模拡大を追求した店もあったが、地元農家が離反してしまい、結果として消費者の農産物直売所としての評価を下げ、経営が苦しくなった事例もある。生産者であり消費者である地元住民を甘く見ることは、取り返しできない結果を招くことになる。

生産者の思いを優先すれば生産者の生産品販売にこだわりたいし、地元住民の期待に応えるには地元産販売を優先しつつも地域によってはスーパー機能も果したいし、事業活動発展のために売上額を重視すれば、仕入拡大も含めて農畜林水産物農産物直売所に変身したいであろう。

仕入品をどの程度まで増やすことを消費者が容認するのか、生産者が認めるのか、地域によって運営主体によって判断は異なる。農産物直売所を取り巻く様々な期待や願いを受け入れて、農産物直売所の今後の経営方針が決められることになる。

以上の状況を考慮して、農産物農産物直売所の今後のあるべき姿を項目別に考えてみる。

1. 商品に関するもの

(1) 品揃えの充実

- ① 出来る限り仕入れ商品を減らしていき、地場産の産品を増やし地域活性化を目指す。仕入商品売る場合は、売場をはっきり区別して仕入商品と地域経済貢献商品がはっきり分かるようにして販売する。
- ② 地域素材を用いた新たな加工品の開発を行い販売することで、農商工連携活動につなげる。
- ③ 目玉商品の開発を行う。
- ④ 農産物のみならず、出来る限り地元の林山品・畜産品・鮮魚の販売を行なう。

(2) 機会損失の防止

① アイテム別の販売状況を生産者にリアルタイムで知らせ、農産物を補充することが可能なシステムを導入し、品薄状態にならないよう配慮する。

② 生産者にPOSシステム等を利用して販売状況をリアルタイムで知らせ、追加や売れ残り具合が何時でも確認できるシステムを構築する。

(3) 安心・安全・新鮮食品の提供

① 有機肥料、減農薬商品にこだわり、つねに残留農薬の検査を実施する。

② 販売する農産物は鮮度、完熟度を重視し、できれば朝採りにこだわる。

(4) トレーサビリティの実施

① 生産者から出荷される農産物のすべてに栽培履歴の記帳を義務付け、「誰が・何を・いつ・どのように」栽培してきたかを履歴で残すシステムを構築する。履歴を残すことでどのような過程で栽培されたかがわかるので、消費者に安心して農産物を食べていただくことができる。

② 商品に添付する値札には必ず出荷日を記入し、商品が何日に出荷されたのかをお客様にわかりやすく表記し、新鮮さをアピールするようにする。

2. 設備に関するもの

(1) 複合施設の併設による来客数の増加

農産物加工場やレストラン等の複合施設の併設により来客数の増加を図る。

(2) 通過客の取り込み

通過客を取り込むため、駐車場の整備や見やすい看板の設置を行う。

(3) 規模の拡大や店舗場所の変更

農産物直売所によっては規模の拡大や、最終的には店舗場所の変更を検討する。

(4) レジスターの設置

規模の小さい農産物直売所ではレジスターを設置していないところも見受けられる。お客に領収書の発行も不便であり、生産者ごとの売り上げの集計も手間がかかっているため、お客様サービスと省力化を考えて、これらが可能なレジスターの設置を行うべきではないか。

3. イベントに関するもの

(1) 定期的なイベントの実施

例えば曜日を定めての朝市など定期的なイベントの実施を行う。

(2) 消費者との交流

農産物農産物直売所と消費者のふれあい交流活動に力を入れる。生産者が交代で店に出て客の案内掛を務める、加工品の手づくり体験をさせる、田植えや芋掘りなどの体験をさせる。

(3)情報の提供

定期的に来客向けに店の様々な情報を知らせる。

4. 生産者に関するもの

(1)営農指導等の実施

売れるための生産、消費者ニーズにあった生産を目標に、関係者が一体となって営農指導、施設栽培の技術指導、クレーム分析などを行い農産物直売所で販売するものの品質や価格は従業員が常時チェックする。

(2)生産者へのアドバイス

生産者には当該農産物直売所の「販売の問題点」「出荷物の標準規格」「包装方法」「標準売価」等を時宜に応じてアドバイスをする。

(3)トレーサビリティの実施

栽培履歴の記帳を義務付けることで、生産者に安全・安心な農作物の栽培を促し、農作物への間違った農薬散布などを未然に防ぐようにする。

(4)高齢化対策

高齢化が進む農山村の農産物直売所では、出荷物の店への搬入や引き上げ、最終的には農作業の引き受けも考慮する。

(5)農業後継者づくりや新規就農者の受入

後継者や新規就農者を育てるために特別販売コーナーを設けたり、新品種の栽培委託をしたり、特別に研修機会を与える。

(6)生産者の意欲の引き出し

少量の珍しい生産物を大切に販売することによって、生産者の意欲を引き出す。

5. 販売促進に関するもの

(1)生産者も農産物直売所の運営を分担

農産物直売所の運営に生産者をレジ係、接客係、搬入製品チェック係、イベントの客対応係等に役割分担して積極的に関与させる。そうすることによって、生産者に責任感を持たせるとともに、生産者は地元農家の人々なので、新鮮な農産物を販売するだけでなく、おいしくて新鮮な野菜の見分け方や地元で伝わる旬の野菜のおいしい調理方法をアドバイスするなど、お客様とのコミュニケーションを大切にし、生産者と消費者との交流の場としての役割も果たせる。

(2)POPやレシピの活用

POPや旬の野菜を使った料理レシピも豊富に用意し、季節の野菜を美味しく調理する方法などを提供する。

(3)加工品の強化

手づくりに近い加工品を豊富にするし、素材でおいしいお袋の味を売り物にする。

(4)生産者個人の強調

出品物には必ず生産者名を記入し、生産者個人を強調することによって、消費者のニーズに合った商品を出品し続け、個人名まで覚えて買いに来るリピーターを増やす。

(5)一級品と二級品の区別

生産者の個人名に恥じない一級品を売ることが必要であり、二級品ははっきり区別して価格を下げて販売りする。

(6)販路開拓

農産物農産物直売所で来店客を待つだけでなく、学校への給食食材としての提供や、福祉施設へ給食食材や弁当を提供する。

(7)旬や季節感の演出

旬や季節感を上手に演出し、地元産で旬の農林畜水産物を店頭に並べて競合店との差別化を図る。

(8)地域の伝統食文化の強調

地域の伝統食文化を活かし、伝統野菜、地域食品、昔ながらの食品を販売することにより、消費者に懐かしさを感じさせるとともに、地域の活性化につなげる。

6. 人材に関するもの

(1)教育訓練の実施

農産物直売所も一般企業と同様に、当該農産物直売所にとって必要であり、かつ実情に合った教育訓練を継続的に実施し、従業員のスキル及びモラルのアップを図る。

(2)商品知識の吸収

農産物直売所の従業員は販売のプロとして、消費者に料理の仕方や栽培方法等を聞かれた時は、即座に的確な返答ができるよう、当農産物直売所で扱っている商品についての商品知識を身につける。

(3)3S運動の徹底

従業員に整理、整頓、清掃、清潔、躰を徹底的に教育し、お客様に不快感を与えないようにする。

(4)資格の取得

応対話法、消費者意識、顧客の購買動向、商品知識、ラッピング方法、POP等についての系統だった知識をつけるためには、三級販売士の資格取得を目指して勉強するのも一方法である。

7. 農産物直売所の役割に関するもの

(1)農産物直売所の役割の再考

農産物直売所の目的は、地域で生産される新鮮で安全・安心な農産物を安価で提供することにより、地域の活性化を図ることである。創業当時との環境の変化を考慮して、地域での位置づけ、他産業との兼ね合いを含め、新たな役割を担った店舗へ移行するのも一方法である。

(2)生産者と消費者の交流の場づくり

地元で生産された「安全・安心・新鮮」な農産物や加工品などを、消費者に安価で提供するとともに、生産者の顔の見える販売により「生産者と消費者の交流の場づくり」を行う。

(3)地域食料自給率の向上と農業振興

田植えや芋掘りなどの体験農園による食育、地域農産物の提供により地域食料自給率の向上と農業振興をめざす。体験農園は、修学旅行生や観光客に対するグリーンツーリズム、企業の福利厚生活動にも利用範囲を広めていくべきである。

(4)農業の6次産業の創造

従来型の農業者（1次産業）、加工業者（2次産業）、流通業者（3次産業）の連携や融合ではなく、農業者が主導して2次、3次産業を自らに取り込む積極的な姿勢でのぞむべきである。

(5)地元産へのこだわり

できる限り地元産にこだわり、あわせて伝統食品の復活も目指して地域活性化を図る。仕入商品は多くとも、総売上高の2割以内が原則である。

参考までに、平成18年に全国の農産物農産物直売所リーダー有志によって設立された「全国農産物直売ネットワーク」では、農産物農産物直売所らしさを追求する「8つの目標」として次の項目を掲げているので掲載しておく。

- ① 生産者自らが主体的に活動に関わります（農業生産者による運営）
- ② 地域の農業振興を目的とします（地域の農業振興）
- ③ 地域に伝わる食の伝統と味を守ります（地域色文化の継承）
- ④ 地場農産物の販売を基本とします（地産地消の拠点）
- ⑤ 安全で安心できる商品を販売します（生産者の顔が見える商品）
- ⑥ 健全な経営に心がけ、地域経済に貢献します（地域経済に貢献）
- ⑦ 消費者に食と農の最新情報を届けます（都市農村交流の推進）
- ⑧ 子どもたちの食育・農育を担います（食育・農業体験の実践）

おそらくどの農産物直売所でも、新しく開設されてからの数年間、販売額は着実に増加の一途をたどっていく。目新しさやもの珍しさも手伝って、一度は行ってみようという消費者が次々に訪れ、生

産者の方も栽培面積や栽培品目を拡大して、増え続ける来客の期待に応えようとするからである。この期間は、「農産物直売所の成長期」と呼ばれている。

しかし、ある時期から、販売額がそれほど増えも減りもしない状態を迎える。消費者の買い物行動が定まって、農産物直売所を好む来客だけに固定化される一方で、生産者の側も、労働力や農地面積の制約から出品できる数量が限られてくるためである。この期間は、「農産物直売所の安定期」と言われている。

安定期を迎えた農産物直売所は、一般的にその後三つに分かれた道をたどることになる。安定期をそのまま維持する道と、販売額が減少に転じて「農産物直売所の衰退期」へと進む道、それと、ふたたび販売額が伸びていく「直売所の再成長期」へ向かう道である。

いずれの道をたどるのは生産者、そして運営者の努力次第であるが、衰退期へ進む道を途中で止め、再成長期への道を広げていくことが、今後の農産物直売所としてのあるべき方向であると思われる。

おわりに

和歌山県支部では、平成23年度の調査・研究事業で、『農産物直売所の現状及び課題と成長戦略の提言』を報告書にまとめた。

農産物直売所を徹底的に研究するために、農産物直売所の歴史、農産物直売の形態、農産物直売所の存在意義を調査し、和歌山県下の各農産物直売所の所在地、開店年月日、TEL、FAX、運営主体、営業時間、定休日、アクセス、従業員数、売場面積、レジ台数、主な販売物、22年度売上高、22年度来客数、客単価、売上傾向、仕入形態、定期的イベント、飲食施設、出荷登録者数、駐車場、トイレ、障害者施設、当農産物直売所農産物直売所の長所(特徴)を資料調査、アンケート調査、ヒアリング調査により解明した。

この調査の結果、種々な問題点が分かったが、最も問題になったのは、農業協同組合や株式会社がファーマーズマーケットのような大規模な農産物直売所を運営しだした結果、生産者自身の団体が自主的にやっている農産物直売所は売り上げが減少して採算が取りにくくなったことである。

また調査を実施する際に、非協力的な農産物直売所もあったが運営主体の考え方や企業秘密もあるのでやむを得ないものであると解釈した。

調査の過程で、多くの問題点が抽出されたが、和歌山県の農産物直売所全体についての今後のあるべき姿を、商品に関するもの、設備に関するもの、イベントに関するもの、生産者に関するもの、販売促進に関するもの、人材に関するもの、農産物直売所の役割に関するものにまとめて具体的な問題点と改善策の提言を行った。

今後農産物直売所はまだまだ増加すると思われる。和歌山県でもこの調査・研究のまとめを行っている間に多くの農産物直売所が新規開店し集客している。それを考えると今回の『農産物直売所の現状及び課題と成長戦略の提言』の調査・研究は時宜を得たものであると自負できると考える。

時間的・経費的な制約もあり、必ずしも満足のいくものではないが、この調査・研究結果が今後の和歌山県の農産物直売所の運営主体が、生産者の任意団体、第3セクター、農業協同組合、株式会社等のいずれであろうとも互いに切磋琢磨して発展し、ひいては地域の発展の一助になればと願うものである。

PR方法としては、農産物直売所の関係者及び消費者を対象にしたセミナーを実施した。

今後は、中小企業診断協会本部及び各支部、和歌山県果樹園芸課（和歌山県の農産物直売所の担当部署）にCD-ROMを配布し、和歌山県下の農産物直売所で希望するところにもCD-ROMを配布し、地方紙に記事記載の依頼をする予定である。

出来れば近い将来、和歌山県支部がコーディネーターとなって「和歌山県農産物直売所サミット」が開催できればと考えている。

なお、この調査研究にあたって次の文献を参考にさせていただき、一部引用もさせていただいたことをお断りしておく。

和歌山県ホームページ

創森社刊行 田中満著 農産物直売所が農業・農村を救う、出会う、にぎわう、ふれ合う

新評論刊行 関満博，松長永桂子編 農産物直売所/それは地域との「出会いの場」

家の光協会刊行 勝本吉伸著 農産物直売所 出品者の実践と心得 100

社団法人中小企業診断協会

和歌山県支部、調査・研究班

参考資料：アンケート依頼文

農産物直売所担当者 各位

農産物直売所実態調査のご協力お願い

拝啓 時下ますますご清祥のことと拝察致します。

「社団法人中小企業診断協会和歌山県支部」では、毎年、自主研究事業として地域経済発展のための調査・研究事業を実施しています。

平成23年度の調査・研究事業は、農村・農業の活性化と消費者に新鮮な農産物と食の安心・安全を提供し、ひいては地域の活性化にもつながる農産物直売所の発展策を取り上げることに致しました。

農産物直売所のアンケート及びヒアリングで農産物直売所の実態と、各農産物直売所の特徴・問題点・課題等を調査し、改善策を提案して報告書にまとめたいと考えています。

農産物直売所の担当者の方々には、大変お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、農産物直売所の発展の一層の促進に向けた資料づくりという趣旨をご理解いただき、是非調査にご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、傘下に複数の農産物直売所がある場合は、恐れ入りますがすべてについてお願いします。

敬具

平成23年5月25日

〒640-8214

和歌山市寄合町44番地(宮本ビル3階)

社団法人中小企業診断協会

和歌山県支部、支部長・奥村 博志

TEL 073-428-7370

FAX 073-423-7737

次の質問にお答えください。

(個々の農産物直売所として報告書に記載してもいい項目のみをご記入ください)

直売所名称					
所在地					
開店年月日	年 月 日				
T E L		F A X			
運営主体					
運営主体					
営業時間					
定休日					
アクセス					
従業員数	正社員	パート	その他	合 計	
	男性 名	男性 名	男性 名	男性 名	
	女性 名	女性 名	女性 名	女性 名	
	計 名	計 名	計 名	計 名	
売場面積	坪				
レジ台数	台				
主な販売物					
2 2 年度売上高	千円				
2 2 年度来客数	人				
客単価	円/人				
売上傾向	増加傾向、横ばい、減少傾向				
仕入形態	仕入 %、 委託 %(手数料 %)				
定期的イベント					
飲食施設	あり、なし				
出荷登録者数	人				
駐車場	あり (台) 、なし				

トイレ	あり、なし
障害者施設	
当直売所の長所 (特徴)	

以下の項目は、個々の農産物直売所として記載せず、農産物直売所全体として把握しますので、どここの農産物直売所の特徴等かわからないように配慮いたします。

当直売所の現在の 問題点	
当直売所の将来 の問題点	
改善策	

その他、なにか意見等があれば記入してください。

回答者 役職 _____

氏名 _____

ご協力ありがとうございました。

FAXでお返事いただきますようお願い申し上げます。

FAX 073-423-7737